BUDŌ NEWS

今月のニュース

天皇盃　第69回 全日本男子弓道 選手権大会

鹿野伸一教士六段が初優勝

皇后盃　第51回 全日本女子弓道 選手権大会

斉藤美智子教士七段が３度目の優勝

天皇盃第69回全日本男子弓道選手権大会

鹿野伸一 教士六段（東京）が悲願の初優勝を飾る

坂本達雄 教士七段（青森）が2年連続の最高得点賞

天皇盃第69回全日本男子弓道選手権大会が9月14日～16日の3日間、東京・代々木の全日本弓道連盟中央道場で全国から選出された110名の選手が参集して、開催された。

大会では、12回目の出場の鹿野伸一教士六段（東京）が10射皆中で初優勝を飾った。最高得点賞は坂本達雄教士七段（青森）が2年連続の受賞となった。

予選は各自4射（一手2回）を行い、得点の上位20名を選出。決勝は各自10射（一手5回）を行い、的中制により順位を決定した。10射実施後の優勝者以外の順位は遠近競射にて決定した。

第３位＝橋口聖矢

準優勝＝山本一輝

最高得点賞＝坂本達雄

第５位＝友安正人

第４位＝細川孝夫

◆男子　9月14日～16日

14日は開会式、矢渡しが行われた。15日は秋雨が降りつけるなか、110名の選手によって予選が実施された。坂本達雄（青森）は4中・計1521点を出して2年連続となる最高得点賞を獲得した。昨年優勝の中條大輔（石川）は4位で通過。一昨年優勝の小原裕幸（島根）も10位で通過となった。

16日、前日の雨雲が空に残るなか午前9時より20名の予選通過者によって決勝戦が行われた。

この日、最初に矢を射るのは4月の世界大会男子団体優勝の友安正人（石川）。注目を受けながらも友安は軽快に的中させた。それに続く選手たち。中條は2本目を失中して遅れをとる。2回目を終えて、友安、鹿野伸一（東京）、大隈雅成（鹿児島）、橋口聖矢（鹿児島）の4名が4中となった。3中で後を追うのは、3本目を外した山本一輝（熊本）と4本目を外した細川孝夫（福井）、4本目を外した坂本と3本目を外した小原など6名。中條は3本目を痛恨の2つ目の失中としてしまう。

3回目が終わって6中はやはり友安、鹿野、大隈、橋口の4名。5中は坂本、小原、山本、細川の4名のみとなった。

4回目。雲が切れ、陽が差し始めた。天候が変化する中で試合にも動きが出てくる。友安、鹿野、橋口は8中、小原、山本、細川も7中と現状を維持するが、大隈は7本目の矢を中てられず7中に沈む。坂本も8本目が失中となり6中。

注目の5回目、9本目を友安、山本はともに中ててくる。友安は10本目をまさかの失中。それを間近で見ていた山本であるがしっかりと中てた。友安、山本はともに計9中。鹿野は9本目を中てて、鹿野の10本目に場内の視線が集まる。鹿野は矢を水平に保ちながら美しい会をとる。一間おいた離れの後で、矢は吸い込まれるように〝ポン〟と的に的中した。大きな拍手に包まれる鹿野。橋口が9本目を外して、鹿野伸一の初優勝が決まった。

遠近競射によって、2位に山本一輝。3位に橋口聖矢、4位に細川孝夫、5位に友安正人が入賞した。

＜優勝者インタビュー＞

理想の射を目指した末の初優勝

◎優勝＝鹿野伸一（かのしんいち）教士六段（東京）

競技終了後、インタビューを試みようと記者は選手控室に伺った。しかし、鹿野選手の姿はどこにも見当たらない。ウロウロする記者に対して「鹿野さんなら宝物館の横の喫煙所に行ってるよ」と別の選手からありがたい声をかけて頂いた。

喫煙所に行ってみると、秋晴れの空の下、数名の関係者に囲まれて気持ち良さそうにタバコをくゆらす鹿野選手の姿があった。

鹿野選手は快くインタビューに応じてくれた。

「正直言って自分が優勝するとは思ってもいなかったので、ビックリしているのが本当のところです」と率直に心境を語る鹿野選手。選手権に向けてはどのような稽古をされてきたのだろうか。

「自分の技術的なウィークポイントが色々とあるので、その改善を重点的に行いました。最後まではできませんでしたが、続けてきた成果が出たのかなと思います。普段の稽古においても常に本番を想定して、リズムなどを意識して稽古しています」

場内の注目が集まった10本目はどのような気持ちで矢を引いたのだろうか。

「緊張するのかなと思ったのですが、今日は1本目から10本目までそんなに堅くならずにのびのびと引けたかなと思います。時に10本目だからとか意識することはなかったです」

本番を意識した稽古が奏効したということであろう。

「父が弓をやっていたものですから、高校に入ったのをきっかけに父の指導を受け始めました」

弓道歴は35年になるという。現在は東京板橋区の弓道場で稽古をしている。会の美しさが印象的であった鹿野選手の射技。最後に目指す射を伺った。

「まだまだ自分ではこれだ！　というのはありませんが、一所懸命引いた結果で矢が飛んでいくような射を引きたいです。私は国体選手時代にどうしても手先で中てるような射を引いていたものですから、今でもそれが出てしまいます。身体で引いて、身体で離れを行いダイナミックな残心が取れるような射を目指していきたいです」

理想の射に近づけてましたか。

「いや、いや、全然駄目でしたよ！」

今まで淡々と質問に応じていたが急に慌て出す鹿野選手。

「客観的には評価できませんが、まだやろうと思っているレベルなので、身体に染みついているわけではありません。自然に何も考えずにそれが出来るようになるまで、今まで通りに稽古をしていかなくてはと思います」

選手権覇者にとっても理想の射は道半ば、弓の道に終わりはない。鹿野選手の理想の射は煙のように浮かんでは空に消えて摑み難い。印象に残る秋晴れの喫煙所であった。

○準優勝＝山本一輝（やまもといっき）錬士六段（熊本）

「非常にホッとしています。準優勝という実感はそれほどないですが、今、こうして周りの方々からお声をかけていただいているので、少しずつその実感を噛み締めていこうと思います」

▽3位＝橋口聖矢（はしぐちせいや）錬士五段（鹿児島）

「9本目を外した瞬間は全身から血の気がひきました。そこで落ち込まずに気を張り直して10本目に臨みました。3位に入れて嬉しいです」

▽4位＝細川孝夫（ほそかわたかお）教士八段（福井）

「今回最後だと思って臨んだのですが、大会中に様々な課題が見つかって、直しながら最後まで引けました」

▽5位＝友安正人（ともやすまさと）教士六段（石川）

「悔しいです。いつもここに来るとうまく引けずに、自分らしくなかったので、今年は自分らしく引こうと思っていました」

◎最高得点賞＝坂本達雄（さかもとたつお）教士七段（青森）

「2年連続してこのようなすばらしい賞をいただき感激しております。今後もこれに驕（おご）らず高みを目指していけるように精進していきたいと思います。次は天皇盃を目指します」

矢渡＝中野秀也範士八段

左から友安氏、橋口氏、鹿野氏、山本氏、細川氏、坂本氏

全日本弓道連盟中央道場・至誠館第２弓道場

大会は 110 名によって競われた

立順	氏名	所属	予選			決勝												
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	的中	遠近競射	順位
1	友安　正人	石川	4	1434	20	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	9	4	5
2	澁谷　佳史	徳島	3	1439	15	○	×	○	○	×	×	○	○	○	×	6		
3	山本　一輝	熊本	4	1436	18	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	9	1	2
4	佐々木光彦	秋田	2	1438	16	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	3		
5	辻　　尚宏	茨城	4	1461	6	○	×	×	○	×	×	×	○	○	×	4		
6	道越　良治	石川	4	1441	13	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	7		
7	鹿野　伸一	東京	2	1440	14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		1
8	田中　成和	千葉	4	1442	12	×	○	○	×	○	○	×	○	×	×	5		
9	常光　祐一	高知	4	1466	3	○	○	×	○	×	○	×	○	○	○	7		
10	志村　　仁	長野	4	1436	19	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	7		
11	椎名　好一	千葉	3	1444	9	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	2		
12	中條　大輔	石川	4	1464	4	○	×	×	○	○	○	×	×	○	×	5		
13	多湖　賢治	三重	2	1437	17	×	○	×	○	○	○	×	○	○	×	6		
14	大隅　雅成	鹿児島	3	1445	8	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	8		
15	橋口　聖矢	鹿児島	4	1443	11	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	9	2	3
16	荒川　博行	北海道	2	1456	7	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	7		
17	高野　直行	新潟	3	1462	5	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	7		
18	細川　孝夫	福井	4	1492	2	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	9	3	4
19	坂本　達雄	青森	4	1521	1	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	7		
20	小原　裕幸	島根	2	1444	10	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	8		

皇后盃第51回全日本女子弓道選手権大会

斉藤美智子教士七段（静岡）が3回目の皇后盃

最高得点賞も2年ぶり同時受賞

皇后盃第51回全日本女子弓道選手権大会が9月16日～18日の3日間、全国から選出された110名の選手が参集して、明治神宮境内の全日本弓道連盟中央道場で開催された。

大会では、過去2回優勝の斉藤美智子教士七段（静岡）が10射皆中で3度目の優勝を飾った。また、最高得点賞についても斉藤美智子が3回目の受賞となった。皇后盃・最高得点賞の同時受賞は平成28年に続き、自身2度目となる。

男子同様に、予選は各自4射（一手2回）を行い、得点の上位20名を選出。決勝は各自10射（一手5回）を行い、的中制により順位を決定した。10射実施後の優勝者以外の順位は遠近競射で決定した。

第３位＝奥田祥子

準優勝＝小牧佳世

第４位＝星野信子

第５位＝安藤久美子

◆女子　９月16日～18日

16日は開会式、矢渡しが行われた。

17日は110名の選手によって予選会が行われた。昨年優勝の前田かおりは1中に終わり、予選で敗退した。4中・1468点で斉藤美智子（静岡）が最高得点賞を受賞した。2年ぶり3回目の受賞となる。続いて、過去4回優勝経験のある齋藤住子（東京）が4中・1451点で2位で通過した。また、本誌にて「死ぬまで弓道」を執筆中の小牧佳世（京都）は7位で予選を通過した。

18日午前9時、静謐な神宮の杜で、粛々と決勝競技は開始された。

1回目では早くも失中する選手が続出する。そんな中、斉藤美智子は一際いい音を立てて2中。小牧もゆっくりと会をとった射で2中。小林ひとみ（新潟）、齋藤往子もこれに続いた。

2回目では小牧が3本目を落とす。齋藤往子も3・4本目と立て続けに失中してしまう。4中は斉藤美智子、小林に絞られた。

3回目が終わって、6中は斉藤、小林の2名。5中は星野信子（愛知）、安藤久美子（福島）、小牧、奥田祥子（熊本）の4名。

後半となる4回目。斉藤は変らず無駄がなく滑らかな射技を披露。2中とも的確に的中させる斉藤。続く小林は、緊張からか2射とも落としてしまった。斉藤が8中で独走する。小牧と奥田は8本目を外し、6中に沈んだ。星野と安藤が7中。

最後の5回目、斉藤が3度目の優勝に大手をかける。プレッシャーがかかる中でも変わらない射技で9本目を的中させた斉藤。続く斉藤の10本目。場内では、全員が瞬きも惜しんで注視する。しかし、斉藤はそれを気にもせずに同じリズムで体配を行い、見事に的中させた。場内からの大きな歓声に包まれる中、斉藤美智子は10射皆中で、2年ぶり3度目の皇后盃を射止めた。

星野は9本目を、安藤は10射目を失中。8中の星野、安藤、小牧、奥田によって遠近競射が行われた。

遠近競射の結果、2位に小牧佳世、3位に奥田祥子、4位に星野信子、5位に安藤久美子の入賞が決まった。

＜優勝者インタビュー＞

〝百錬自得〟を胸に、射止めた皇后盃

◎優勝・最高得点賞＝斉藤美智子教士七段（静岡）

選手控室にてインタビューに応じてくれた。思えば、2年前の優勝・最高得点賞のダブル受賞時にもインタビューさせてもらっている。場所も全日本弓道連盟中央道場であった。

「皇后盃・最高得点賞の両方をとれるとは思っていませんでしたので自分でもビックリしております。どうしましょうという気持ちです（笑）」

2年前と同様の感想。やはり謙虚な人柄である。斉藤選手の射技は、側から見ていて常に同じリズムで安定感があった。その時のご自身の胸の内を伺った。

「自分が気をつけなければいけない点を注意して、外してしまいそうなところでは気合を入れて引き、ホッとしていました。自分の中ではけっこう揺れ動いております。ドキドキものでした」

あれだけ安定感がある射技の内に揺れ動く心。意外な返答である。5回目の射技では場内から多くの視線を集めて、自身の注力に欠くことはなかったのであろうか。

「自分の中では皆さんの視線は意識しないようにしています。9本目は危なかったですが的の下の方に中って、今日は運もあるなと思いました」

外部の影響は受けず、ひたすらに自分と向き合い続けた10射であったことが窺える。

「高校時代に弓道部に入り、弓を引いていましたが、社会人になると仕事の関係で弓を引けない期間が続きました。33歳からまた再開しまして今日に至っています」

弓を引いていない期間も、早く再開したいという気持ちを常に持っていたという。弓道を再開して30数年、弓道と仕事を両立させて稽古を重ねているとのことだ。

「稽古では縦線、横線がブレないように注意しています。選手権のようなこういう晴れ舞台ではなかなか難しいですね」

しかし、過去2回の優勝経験を持っている斉藤選手にはそれほどプレッシャーもかからないようにも思えるが。

「選手権は県の地区予選から始まります。自信は全くなく、その時その時で必死です。しかし今日は上出来ですね。神宮の神様が味方してくれたのでしょうか（笑）」

最後に理想とする弓を伺った。

「理想とするのは佐竹万里子先生の弓です。私たちとは違う次元、心で弓を引いてらっしゃいます」

少し佐竹先生に近づけたのでしょうか。

「いえいえ、とんでもございません！　次に向かって体調を崩さずに頑張ってまいります」

斉藤選手の座右の銘はやはり2年前と同様に〝百錬自得〟。斉藤選手は、鈴木三成先生から教示していただいた言葉を胸に、繰り返し繰り返し今後も稽古を重ねていく。

○準優勝＝小牧佳世教士七段（京都）

「運が良かったと思います。毎回・毎年、課題を持って臨みます。今回は手先に力が入らないようにすることと、美しい残心がとれるようにしようと心がけて臨みました。理想の矢にはまだ遠かったですね。5回目だけは外れてもいいからと自分の思いのままに引きました」

▽3位＝奥田祥子錬士五段（熊本）

「この場にいるのが不思議な感じです。初出場だったものですから、何が何だかわからない内に終わったような感じです。実感はまだわきません。家に帰ってからですかね」

▽4位＝星野信子教士七段（愛知）

「いつもよりは緊張はなかったと思います。自分から離しにいかないように最後まで伸びる意識を持って試合に臨みました。また来年もこの大会に参加したいと思います」

▽5位＝安藤久美子教士六段（福島）

「一本一本引くことに徹することと、先生や支えてくださっている方々へ感謝の気持ちを込めて試合に臨みました。今後は毎年のように大会に出場できるように練習していきたいと思います」

矢渡＝佐竹万里子範士八段

左から安藤氏、奥田氏、斉藤氏、小牧氏、星野氏

決勝では多くの観客が競技を見守った

決勝競技

立順	氏名	所属	予選			決勝												
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	的中	遠近競射	順位
1	中本　宏子	静岡	3	1422	14	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○	6		
2	山田　直美	大阪	2	1423	11	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○	7		
3	佐竹　明美	北海道	2	1421	15	×	○	×	○	○	×	○	○	×	○	6		
4	佐脇　亜紀	愛知	3	1417	16	○	×	×	×	○	×	○	○	○	×	5		
5	北川　浩子	大阪	2	1415	17	×	○	×	×	×	○	○	○	○	×	5		
6	山本あけみ	福井	3	1442	4	×	×	○	×	×	○	×	○	×	×	3		
7	岸本　幸恵	岡山	3	1413	20	×	○	○	×	×	○	×	○	×	○	5		
8	斉藤美智子	静岡	4	1468	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10		1
9	星野　信子	愛知	3	1441	5	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	8	3	4
10	田中　邦子	長崎	2	1433	8	×	×	×	×	○	×	○	○	○	○	5		
11	安藤久美子	福島	4	1438	6	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	8	4	5
12	伊藤紀美子	三重	3	1445	3	×	○	×	○	×	×	×	○	○	○	5		
13	小牧　佳世	京都	2	1433	7	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	8	1	2
14	小林ひとみ	新潟	3	1413	19	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	7		
15	吉武美智代	大分	2	1414	18	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	6		
16	大森　淳子	東京	3	1427	9	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×	3		
17	奥田　祥子	熊本	4	1422	12	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	8	2	3
18	松本　愛子	東京	3	1422	13	×	×	×	×	×	○	○	×	○	○	4		
19	有澤　千秋	鳥取	2	1424	10	×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	7		
20	齋藤　往子	東京	4	1451	2	○	○	×	×	○	×	×	×	○	×	4		

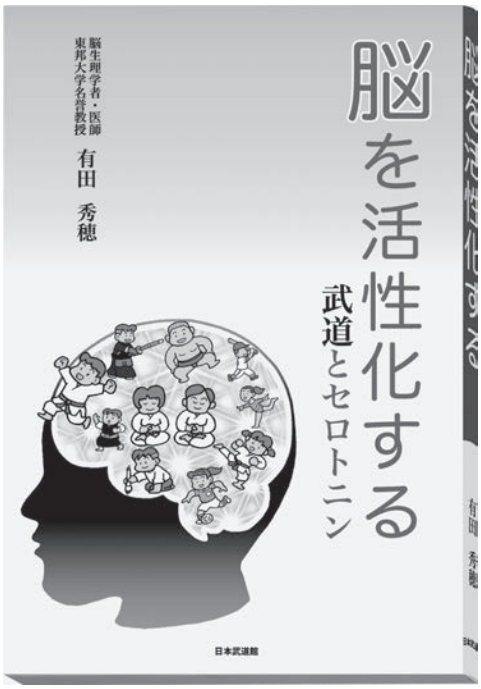
好評発売中

脳を活性化する

武道とセロトニン

脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授
有田秀穂 著

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もができる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円＋税

有田秀穂
（ありた・ひでほ）

昭和23年（1948）東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部　脳の活性化とは
坐禅とセロトニン
ストレスとしごき
空海はセロトニン活性の達人
『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング
沢庵の「不動智」とワーキングメモリー
不動明王と心の三原色
『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識
悪夢を消すには？
精進料理とセロトニン合成
「茶の湯」とセロトニン的生活
「自然に体が動いた」を脳科学で解く
勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する
「武道の礼法」は社会脳を育む
相撲の「四股」は品性を育む
書道も心技体の人間修行
アンドロゲンと闘争心
日本の祭にはセロトニンがたっぷり
スキンシップとオキシトシン
空手の稽古は坐禅修行に通じる
脳は「丹田呼吸法」をどう操るか
試合における最適な覚醒状態
サイエンスは「気」をどこまで解明したか
仙人術を脳科学する
第2部　対談「武道で脳を活性化しよう」
日本武道館会長　松永　光
東邦大学名誉教授　有田　秀穂
…他

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本の武道

好評発売中!

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

≪目 次≫

序 章
刊行の辞 … 塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって … 松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ … 養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」「武道憲章英訳文」「こども武道憲章」）
カラー口絵（日本武道館、9武道＋日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道
第1節 日本の武道 …… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ … 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化・嘉納治五郎師範の教え …
村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力 …… 大保木輝雄 埼玉大学教授
第5節 学校武道の歴史 … 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力 …… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館 …… （財）日本武道館

第2章 日本の古武道
第1節 日本の古武道
第2節 古武道の技と心 … 横瀬知行 古流武術研究家

第3章 現代の武道
第1節 柔 道 …… （財）全日本柔道連盟
第2節 剣 道 …… （財）全日本剣道連盟
第3節 弓 道 …… （財）全日本弓道連盟
第4節 相 撲 …… （財）日本相撲連盟
第5節 空手道 …… （財）全日本空手道連盟
第6節 合気道 …… （財）合 気 会
第7節 少林寺拳法 …… （財）少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた …… （財）全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道 …… （社）全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関
第1節 日本武道協議会
第2節 全国都道府県立武道館協議会
第3節 日本武道学会
第4節 日本古武道協会
第5節 武道学科等設置大学 ①国際武道大学 ②国士舘大学 ③東海大学 ④日本体育大学 ⑤鹿屋体育大学 ⑥中京大学 ⑦天理大学 ⑧筑波大学

第5章 資料編
第1節 役員名簿・組織図
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧
第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書

（現職・法人名は刊行時）

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第９回 鹿島神宮奉納 日本古武道交流演武大会

古武道34流派の神髄を奉納演武

演武始め・天真正伝香取神道流剣術

第９回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会（主催＝日本武道館、日本古武道協会）が、10月７日、武神・武甕槌大神（たけみかづちのおおかみ）を祀る鹿島神宮（茨城県鹿嶋市）で開催された。大会は、延べ４０００名を超える多数の観覧者が演武を見守る中、全国から集まった古武道34流派154名による奉納演武が行われた。

大会当日は10月としては異例の、30度を超す真夏日となるなか、演武者たちは気迫の込もった伝統の技を奉納した。

大会は、午前９時に全員で昇殿参拝を行い、記念撮影の後、９時45分に吉野喜信日本武道館振興部長による開会宣言で開会。国歌斉唱に続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長（日本古武道協会常任理

吉野喜信
日本武道館振興部長

錦織孝一
鹿嶋市長

鹿島則良
鹿島神宮宮司

三藤芳生
日本武道館常任理事・事務局長

集合写真

事）が主催者挨拶を行った。

「この大会も回を重ねること9回、日本古武道の保存・振興にとってなくてはならない貴重な場となりました。先生方は、この鹿島神宮の大神様の前で演武をすることを誇りに、心と技を鍛えてきたことと思います。今日はそれを披露する晴れの場であります。先生方におかれましては、この武甕槌大神様の前で1年間、鍛えた技と心を存分に演武をしていただきたいと思います」

次に錦織孝一鹿嶋市長が祝辞を述べた。

「34流派154名の皆様、鹿嶋市にお越しいただき、ありがとうございます。今日は天候にも恵まれ、今大会が盛会に開催できますこと、お慶び申し上げます。演武では伝統を守り続けてきた、それぞれの流派の技を披露してください」

その後、鹿島則良鹿島神宮宮司が歓迎の言葉を述べた。

「全国からたくさんの先生方が奉納演武をしていただけること、本当にありがとうございます。普段の稽古で鍛えた技と心を、ありがたく拝見させていただきます。今日観覧に訪れた皆様も、しっかりと先生方の技をご覧になってください」と述べ、開会式は終了した。

演武は社殿前に設えられた特設演武場で行われ、演武始めを天真正伝香取神道流剣術が務めた。続いて、32流派の演武が順に披露され、厳しい日差しの中、洗練された技の数々で多くの観客を魅了した。午前10時から始まり、約4時間続いた演武会を地元流派の鹿島新當流剣術が締め括った。

最後に、吉野喜信日本武道館振興部長が閉会宣言を行い、大会は盛会の裡に幕を閉じた。

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

戸田派武甲流薙刀術

無雙直傳英信流居合術

伯耆流居合術

無比無敵流杖術

武甕槌大神の御前で 洗練された技を奉納

大東流合気柔術 琢磨会

関口流抜刀術

小野派一刀流剣術

卜傳流剣術

竹生島流棒術

鞍馬流剣術

◎卜傳流剣術　親・子・孫三代での出場を果たす

卜傳流剣術は今大会、小山秀弘宗家、息子の隆秀氏、そして孫の秀晃氏の三代での出場となった。高校1年生の秀晃氏に演武終了後、今までの取組と今大会の演武について話を伺った。

「最初は嫌々やらされていたので、形の意味もわからずに稽古をしていました。中学生になり、宗家が体調を崩したことをきっかけに覚悟を決めました。代々受け継がれてきた技の継承に、本気で取り組まなくてはならないと思っています。今回は初めての人前での演武でした。100点満点中、小数点レベルですかね」

自らを厳しく採点した秀晃氏の演武は、父と祖父の目にはどのように映ったのか。

隆秀氏は「これからの修行への期待を込めて50点といったところでしょうか。秀晃にとって貴重な経験をさせていただき、感謝しております。親子三代で稽古できる時間も限られておりますので、伝統の継承に努めてまいりたいと思います」と語った。

そして、秀弘宗家は「秀晃の今回の演武は80点。初めての演武にしては上出来だったと思います。現在、流派としての課題は2つあります。質の高い後継者の育成と一般の方に古武道を理解してもらうことです。親族という身近な人間に伝統の継承ができることは非常に喜ばしいことです。2人には精進してもらいたいと思います」と孫を評価し、2人に期待を膨らませた。

左から孫・秀晃氏、秀弘宗家、息子・隆秀氏

演武を行う秀晃氏（右）

直心影流薙刀術

沖縄剛柔流武術

荒木流拳法

天然理心流剣術

天道流薙刀術

立身流兵法

荒木流軍用小具足

長谷川流和術

柳生新陰流兵法剣術

心形刃流剣術

兵法タイ捨流

天神真楊流柔術

心月無想柳流柔術

神道夢想流杖術

宝蔵院流高田派槍術

柳生心眼流體術

鹿島新當流剣術

田宮流居合術

神道無念流剣術

兵法二天一流剣術

大東流合気柔術

北辰一刀流剣術

為我流派勝新流柔術

日本古武道交流演武大会の開催に先立ち

術技交流研修会・懇親会を開催

術技交流研修会

懇親会

術技交流研修会は大会前日である6日の午後3時30分から、鹿島神宮武徳殿で行われた。参加者たちは、各流派で受け継がれてきた伝統の技を熱心に見学し、切磋琢磨した。

会場を移して、午後6時30分に懇親会を開会。会には演武者をはじめ、地元協力団体など、計188名が出席した。はじめに臼井日出男日本武道館理事長（日本古武道協会理事長）が主催者を代表して挨拶を行い、市村修鹿嶋市副市長が祝辞を、鹿島則良鹿島神宮宮司が歓迎の言葉を述べた。

その後、鏡開きとなり臼井理事長、市村副市長、吉川常隆鹿島新當流剣術第六十五代宗家、鹿島宮司、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長（日本古武道協会常任理事）の5名で、鹿島神宮提供の鏡樽を打ち割った。そのまま三藤常任理事・事務局長の発声で乾杯が行われた。

最後は吉野喜信日本武道館振興部長が中締めの挨拶と大会の成功を願う万歳三唱を行い、閉会となった。

【出場流派・演武者】

①**天真正伝香取神道流剣術**（飯篠宏太、京増重利、荒野祥司、成毛弘、櫻井俊也）

②**戸田派武甲流薙刀術**（建入久代、介川隼人、永埜浩司、本多日向子）

③**心月無想柳流柔術**（八島和雄、奥村宗一郎、仲尾昭二、石津克也、石津圭弘）

④**天道流薙刀術**（木村恭子、玉置捷子、和田久代、近藤圭恵、清水真由美、木村有里）

⑤**兵法タイ捨流**（田添信一郎、河合弘太郎、田中英樹）

⑥**宝蔵院流高田派槍術**（西本昌永、加藤了嗣）

⑦**卜傳流剣術**（小山秀弘、小山隆秀、小山秀晃）

⑧**神道夢想流杖術**（庄子都代子、安部雅人）

⑨**兵法二天一流剣術**（加治屋孝則、前田典子、吉原晴次、月森慎悟）

⑩**竹生島流棒術**（松浦寛澄、岩永雅彦、石川裕章、松浦利英、ミヒャエル・ラインハート）

⑪**心形刀流剣術**（小林強、加藤尚大、原謙一）

⑫**大東流合気柔術琢磨会**（谷井健一、樋口明寿、中岡飛鳥、立花恒、槇原恒夫）

⑬**関口流抜刀術**（中山洋一、本庄弘幸）

⑭**柳生心眼流體術**（梶塚靖司、藤澤勝也、大坪博憲）

⑮**伯耆流居合術**（大窪敏明、吉岡勝子、桑波田秀祐、井上優一郎）

⑯**為我流派勝新流柔術**（根本憲一唯之、村木浩治、沢幡伸男、渡邉文男）

⑰**天然理心流剣術**（常田貞行、時田由記、小林恵子、平本輝彦、松本賢司、須田英宏）

⑱**荒木流軍用小具足**（千葉明、栗林征喜、片桐克彦、浅輪晃一、鶴岡嘉治、鶴岡優子）

⑲**柳生新陰流兵法剣術**（柳生耕一厳信、葭谷努、星川宣禎、中山雄介、渕上俊顕、寺田裕昭）

⑳**無雙直傳英信流居合術**（関口髙明、藤井勝子、野口富久子、清水延子、中野園子）

㉑**直心影流薙刀術**（梶山武子、関根恵児）

㉒**北辰一刀流剣術**（小澤智、髙山陽好、上田忠夫、吉田信二、田中榮治）

㉓**荒木流拳法**（菊池邦光、永田仁志、細野桂一、鈴木荒一、鈴木崇史）

㉔**立身流兵法**（加藤紘、加藤敦、樫村典久、山﨑恒久、石毛勝也、渡辺紳一）

㉕**無比無敵流杖術**（安二郎、大和久正幸、落合脩二、久野周也）

㉖**鞍馬流剣術**（柴田章雄、東山誠、松尾和夫、吉田穣覚、松井康一、渡辺良雄）

㉗**大東流合気柔術**（近藤昌之、天野鎮夫、吉澤隆明、トルーデル・マーク、池嶋勝則、コロージ・マルコ）

㉘**神道無念流剣術**（小川武、萩崎昭、落合毅、土屋正則、玉根純也、浅野史明）

㉙**天神真楊流柔術**（柴田孝一、柴田俊充、中村丈二、有沢誠、阿部岳春、今野賢太）

㉚**小野派一刀流剣術**（矢吹裕二、石崎徹、浅井雅史、鈴木宏哉）

㉛**長谷川流和術**（桑原巡、宮下邦博、倉田勝己、中前裕治、逸見彰一）

㉜**田宮流居合術**（妻木達夫、山口隆一、山田千代和、小野信義、吉池映治、清水新也）

㉝**沖縄剛柔流武術**（寺内一男、戸田雄紀、村上実、若林義昌、手塚泰史）

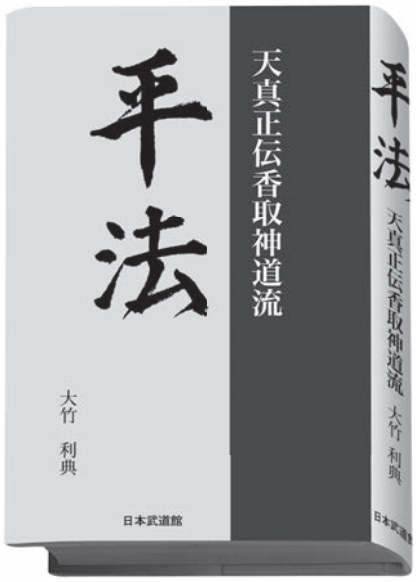
㉞**鹿島新當流剣術**（畳屋敏治、橋本大、横尾廣美、今井淳也、小松崎政史）

好評発売中

平法
天真正伝香取神道流

天真正伝香取神道流 師範
大竹利典（おおたけりすけ） 著

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



（四六判・上製・296頁）

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。

さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目 次

序　章　香取神宮御由緒
第一章　歴史篇
第一節　経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
第二章　修行篇
第一節　入　門
第二節　林先生に師事
第三節　香取神道流最初の異国の門弟
第四節　流祖生誕六百年記念祭
第三章　技術篇
第一節　剣　術
第二節　居合術
第三節　棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節　柔　術
第五節　忍　術
第四章　軍学兵法篇
第一節　遁甲術
第二節　刀剣と密教
第五章　思想篇―全ての修行者へ
第一節　修行者の心得
第二節　兵法は平法なり
―平和を願う偉大なる教え

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

今、なぜ武道か

―文化と伝統を問う―

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

武道における身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）

（B5判・上製・箱入・462頁）

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介！

古流武術研究家

横瀬 知行 著

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

2018年中華人民共和国・重慶市剣道代表団 訪日剣道研修

中国・重慶市から剣道指導者６名が来日
日本剣道の技と心を学ぶ

10月5日から11日にかけて、中華人民共和国・重慶市剣道代表団６名が来日し、日本武道館と国際武道大学で日本剣道の技と心を学んだ。

日本武道館は国際武道大学の協力を得て、来日を歓迎。一行は、千葉県勝浦市の国際武道大学と日本武道館研修センターで国際武道大学剣道部長・日本武道館武道学園（勝浦分園）講師の井島章教士八段に、東京では日本武道館小道場で日本武道館武道学園講師の佐藤成明範士八段に指導稽古を受けて剣道の理解を深めた。

国際武道大学・日本武道館研修センター（10月6日・7日）

10月5日、重慶を発った団員は6日の深夜0時15分、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターに到着。日本武道館片岡正徳振興部副参事兼普及課長が握手を求め、団の代表者である許震宇さん（重慶剣道センター長）がこれに応じた。片岡振興部副参事兼普及課長が「ようこそ研修センターへ」と歓迎の言葉をかけると、代表団一行（男性4名、女性2名、計6名）から遠路の疲れが吹き飛んだかのような笑顔が溢れた。

10月6日午前10時より、国際武道大学2号館において、井島章国際武道大学教授・剣道部長、田中守同教授・剣道部師範の指導のもと、同大学剣道部の1年生～4年生の男女約150名の協力を得て、合同稽古が実施された。

はじめに井島講師より「普段の稽古スタイルを変えて、今日は行います。3・4年生が元立ち、1・2年生と重慶のみなさんが切り返しを行います。終わりの合図があるまで続けましょう」と説明があった。

社会人になってから剣道を始めた30代～40代で構成されている重慶の代表団は、普段毎日のように激しい稽古を積んでいる20代の学生の練習についていけずに呼吸が乱れ、動きが鈍くなってきた。学生たちが「ファイト！」と声をかけて団員を励ますものの、長旅の疲れと睡眠不足も重なって、男性4名は息が上がったが、女性剣道家の何川さんだけはキビキビと稽古を続けた。

▽**許震宇さん**（42）「すごくハードな稽古だと思いました。その稽古に

国際武道大学での合同稽古＝約 150 名の学生とともに稽古。左端は何川さん

片岡振興部副参事と握手を交わす許震宇団長（右）

歓迎懇談会＝松井完太郎体育学部長（右）と許団長

井島講師の指導を受ける許寧さん（右）

ついていけずに残念です。しかし、すごく心がドキドキしています。寝不足のため、体が思うように動きませんでした」

▽**何川さん**（35）「はじめての日本での稽古でした。感動です。中国に帰ったらまた稽古がしたいです」

▽**許寧さん**（42）（途中から稽古を再開し、井島講師に指導を受けた）「井島先生はとっても強かったです。打たれてはまた打たれ、打っても打たれました（笑）」

◇

13時より場所を1号館5階大会議室に移して、国際武道大学主催により、「中国重慶市剣道研修団　熱烈歓迎懇談会」が開かれた。会には、代表団6名、国際武道大学より松井完太郎体育学部長、石井兼輔教授兼国際交流センター長・別科長、井島章教授・剣道部長、野村一也学長室長兼国際室長、日本武道館より片岡正徳振興部副参事兼普及課長、端春彦研修センター室長が出席した。

はじめに松井完太郎体育学部長より歓迎の挨拶があった。

「国と国の関係は様々に変化いたします。しかし、一度剣を交えた者同士ならば、本当の友人になれると信じています。それぞれの立場はありますが、同じ武道を志す者同士で真の友達になれたらすばらしい関係ができると思います。短い時間ですがよろしくお願いいたします」

高見令英学長のメッセージが読み上げられた。

「中国重慶市剣道愛好会のみなさまとこれから友好関係を深めていきたいと思います。今回の研修が実りあるものになりますようにお祈り申し上げます」

続いて許震宇代表より代表団挨拶がなされた。

「今回はこのような貴重な機会をいただき、国際武道大学および日本武道館のみなさまに感謝申し上げます。午前中に学生さんの稽古に参加させていただきまして、みなさんが情熱をもって剣道をされていることが窺えました。これをきっかけとして国際武道大学と長く交流ができたらと思います」

記念品贈呈の後、ランチミーティングが行われ、中国における剣道の現状などの意見交換をしたり、松井、石井、井島氏より武道に関する

研修センターでの指導稽古

竹刀の操作法について説明する井島講師（右奥）

井島講師による模範

最後は全員で黙想

様々な知見が時に冗談を交えながらわかりやすく丁寧に説明された。

15時より研修センター大道場において、井島章日本武道館武道学園（勝浦分園）講師のもと、国際武道大学剣道部11名の協力を得て指導稽古が実施された。

井島講師より「剣道は生涯できる武道です。私は61歳ですが学生たちと稽古をしています。50m走ったら学生に負けますが、竹刀を握れば学生には負けません。それが剣道のいいところです。ぜひ今後も剣道を続けてください」と剣道の特徴について触れ、指導が開始された。

指導では「剣道の有効打突は当たればいいというわけではありません。打った後も美しくなければなりません」と強調して、竹刀の持ち方、足の使い方などを丁寧に説明。学生たちとともに切り返しと面打ち、最後に互角稽古が行われた。

▽井島章国際武道大学教授兼剣道部長、日本武道館武道学園（勝浦分園）講師

「午前中は体が硬かったですが、午後になるとみんな動いていました。ただし、レベルはまだまだです。一生懸命な姿勢と指導のポイントを学ぼうとする意欲は感じられました。中国の子どもたちの剣道のレベルを向上させるためにも、今回の来日が中国における剣道指導者の底辺の拡大のきっかけになればと思います」

勝浦では7日も引き続き井島講師による基本を中心とした指導が国際武道大学と日本武道館研修センターで行われた。

日本武道館（10月9日・10日）

9日14時より、場所を東京・日本武道館第2小道場に移して、日本武道館の武道学園講師である佐藤成明範士八段の指導が行われた。

はじめに、佐藤講師より「剣道は基礎・基本が大切です。少し前に福井県で国体がありました。県内での開催ということで、福井では5年前から強化練習を重ねて来ました。そこでの稽古は姿勢、構え、素振りの基本練習を中心として行ってきました。その結果、国体で福井は優勝することが出来ました。ちなみにコーチは私です（笑）」と基本の大切さを強調。続けて行われた指導も基本を中心としたものとなった。

日本武道館での指導稽古＝佐藤講師（右）

団員の動作をチェックする佐藤講師

終盤は地稽古が行われた。右は謝さん

佐藤講師は「剣道の基本とは？」と団員に投げ掛ける。戸惑う団員たちに「一つは刃筋を正すこと。それには素振りが重要です。まっすぐ上げて、真っ直ぐ下ろしましょう。もう一つは姿勢です」と続けて答えを出した。次に竹刀の握り方や面、小手、胴の基本操作を指導。「竹刀は大きく動かすことが大切です。大きい動作ができれば必ず小さい動作はこなせます」と理路整然と操作方法を説明。一方で、団員に基本動作を行わせ、正しい動きがなされているか鋭くチェックしていった。その都度、修正を加えていく佐藤講師。

終盤では佐藤講師も面を着けて、5分間で相手を替えていく地稽古が行われた。団員が息を切らす中、80歳の佐藤講師は休まずに呼吸も乱さず、テンポよく掛け声をかけていった。団員たちも必死に食らい付き最後まで力を振り絞っていた。

「剣先（けんせん）を中心から外さないことが大切です。逆に言えば相手の剣先を外すと一本を決められます。それを意識すると剣道がますます面白くなります」と佐藤講師がまとめて、稽古は終了した。

▽佐藤成明日本武道館武道学園講師「皆さんかなり出来ていますね。基本的なことは抑えていると思います。むこうで大分、稽古されているのではないでしょうか。井島先生の指導も効いてますかね（笑）。何川さんには数年前に北京で指導しましたが、上手（うま）くなっていました。しかし、スピードなど未熟な面もありますが一生懸命にそして正しくやろうという意志は感じました。北京でも今日と同じような指導をしてきましたが、指導してきたことをしっかり守っています。団を組んで来るだけのことはありますね」

▽謝家寧さん（35）「色々と勉強になりました。剣道の一つ一つの動作について見直しが出来ました。佐藤先生はユーモアに溢れていて、稽古では細かく分かり易い指導をして頂きました」

◇

同日18時より、なぎなたと杖道の体験武道が行われた。

なぎなたでは吉井美恵子武道学園講師が指導にあたった。はじめに団員は、なぎなたの演技と試合を見学。防具を着けた指導では「なぎな

なぎなた体験会＝１列目右端が徐欣さん

なぎなた体験会＝なぎなたについて説明する吉井講師（左）

杖道体験会＝藤﨑講師（右）のもとで実施された

杖道体験会

たには剣道には無いスネがあります」と吉井講師が説明。

なぎなたの体験では、吉井講師がなぎなたを左右反対に持ち替えると団員たちから驚きの声が上がる。「なぎなたは左右で持ち替えて行います」と吉井講師は説明すると、剣道には無いなぎなたの操作方法に団員たちは興味を示していた。いざ、なぎなたの素振りとなると長いなぎなたの操作に不慣れな団員たちは道場の壁になぎなたを当ててしまう場面も見られる。「ムズカシイ！」と団員たち。「できなくてもいいからね。やりましょう」とそれを笑顔で躱す吉井講師であった。

最後は全日本なぎなたの形1本目～5本目を行って終了した。

吉井講師は「最初は皆さん戸惑っていましたが、剣道を稽古していますのでやはりお上手ですね。手の内が分かっていると思います。持ち替えはなぎなた特有の動きなのでそこは戸惑っていましたね」と稽古を振り返った。

▽**徐欣さん**（31）「なぎなたは古流のイメージがあり、とてもかっこいいです。左右でやるのが剣道と違って魅力を感じました」

続いて、藤﨑興朗武道学園講師のもと、杖道の体験が行われた。

「太刀と杖で形を行うのが杖道です」と藤﨑講師は説明。約30分の見学の後、体験に移った。

体験では、団員たちは、藤﨑講師の動作を見習いつつこなしていく。「みんないい！　初日でここまではなかなかできませんよ」と藤﨑講師は団員たちを絶賛する。

体験の最後には、「杖道は形稽古のみです。互いの技術が高まると、面白いことに形であって形でない技ができるようになります。また杖と太刀の長さが違うところも魅力の一つです」と藤﨑講師は杖道の魅力を語った。

稽古後も、団員たちは杖道の成立ち、稽古法など様々な質問を藤﨑講師に投げ掛けていた。

◇

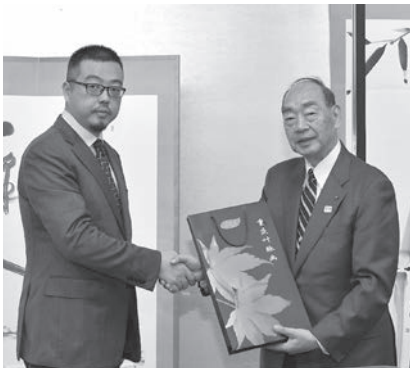
10日、午前は前日に続いて佐藤講師による指導。正午より場所を日本武道館大会議室に移して、日本武道館の臼井日出男理事長、三藤芳生常任理事・事務局長、佐藤成明武道学園講師との懇親昼食会が開かれた。

佐藤成明 日本武道館武道学園講師

臼井日出男 日本武道館理事長

三藤芳生 日本武道館常任理事・事務局長

許震宇 重慶市剣道代表団団長



懇親昼食会＝臼井理事長と許団長

武道学園での合同稽古

出席者は他に日本武道館より吉野喜信振興部長、片岡正徳振興部副参事兼普及課長、清宮正喜普及課主事。

はじめに臼井日出男理事長より挨拶が述べられた。

「ようこそ日本武道館へ。ご来日いただいた重慶の皆様から真摯に剣道を学ぼうという意志が強く感じられます。日本武道館は現代武道9種目と古武道70数流派の振興普及に努めております。海外に日本武道代表団を派遣しておりますが、今回のように海外の武道団を受け入れるのは近年ではありませんでした。今回の受け入れを歓迎するとともに剣道を学んでいただきたいと思います」

次に佐藤成明武道学園講師より挨拶があった。

「皆さんとは2日間という短い間でしたが、お手合わせできたことを大変嬉しく感じております。短期間ではありますが今回経験したことは皆さんが稽古する時、指導する時に手助けとなればと思います。今日の稽古で出たと思いますがいい技が出た時は運動として美しいでしょ？　ただの腕力ではない運動文化としての剣道を理解していただければと思います」

続いて重慶市剣道代表団団長の許震宇・重慶剣道センター長より謝辞が述べられた。

「今回の来日につきまして、日本武道館の皆様に多大なご協力を賜り、感謝申し上げます。中国では剣道の歴史がまだ浅く、競技人口が少ないのが現状です。今回ご指導いただいた正しい剣道を中国でも広めていきたいと考えています」

記念品贈呈の後、昼食会が行われ、様々な話題に花が咲く。特に団員たちは国際武道大学との繋がりができたことを喜び、日本武道館に感謝を述べた。日本武道館の三藤芳生常任理事・事務局長は「今後、要請がありましたらそれに応えたい」と伝えた。

会では佐藤講師へ剣道に関する様々な質問が投げかけられ、佐藤講師はそれに丁寧に答えていく。「基本はウォーミングアップだと思っていました。最初の心構えが間違っていました」と何川さん。それに対し許さんは「今後は基礎・基本を大切にして中国で指導してきます」と応対。続けて佐藤講師より「試合はいかに基本を応用するかだが、もう一つ剣道・武道の精神性も触れてもらいたい」と繋げた。最後に三藤常任理事・事務局長より武道の歴史についての説明があり「重慶の皆さんには人間性を高める剣道の教育集団であってほしいと思います」と伝えた。

閉会の挨拶として三藤芳生常任理事・事務局長が次のように述べた。

「佐藤先生、井島先生の剣道に対する姿勢・態度をしっかり皆さんは学べたことと思います。皆さんの質問を聞きまして、正しいものを学んでこられたと確信しております。今後、中国・重慶の剣道が立派に発展していくことを期待しております」

◇

同日18時30分より、最終行事となる日本武道館武道学園との合同稽古が行われた。

団員たちは佐藤講師、井島講師の指導を思い起こしつつ、学園講師による指導のもとで、学園生徒とともに基本稽古、地稽古をこなした。

最後に許震宇団長に「全日程で印象に残ったことは？」と尋ねると「やはり、基礎・基本を大切にすることです」と笑顔で返答があった。

好評発売中

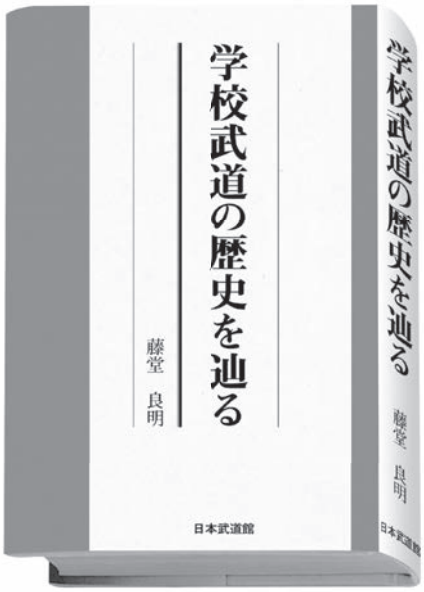
学校武道の歴史を辿る

藤堂良明（とうどうよしあき）（筑波大学名誉教授）著

四六判・上製・354頁・本体2400円＋税

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成20年には「中学校武道必修化」が実現した。

学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



著者略歴

藤堂良明（とうどう　よしあき）
1949年（昭和24）、埼玉県生まれ。東京教育大学体育学研究科修士課程修了。筑波大学教授（体育科学系）、同大学体育専門学群副学群長、同大学附属中学校長、全国国立大学附属学校連盟会長、日本教育大学協会副会長、日本武道学会理事、全日本柔道連盟教育普及委員会委員などを歴任。
現在、筑波大学名誉教授。博士（学術）。柔道七段。埼玉県柔道連盟副理事長。日本古武道協会常任理事。

目次

第1部　江戸時代の学校武道
第1章　藩学の創設と文武学習
第2章　藩学における教育目標
第3章　藩学における武芸教育

第2部　明治時代の学校武道
第4章　武芸の衰退と学校教育制度の確立
第5章　学校武術採用に関する体操伝習所の答申
第6章　山岡鉄舟と嘉納治五郎
第7章　嘉納治五郎の学校柔道普及戦略
第8章　明治期の学校における武術の普及状況
第9章　武術の正課採用への歩み

第3部　大正時代の学校武道
第10章　文部省主催武術講習会の目的と内容
第11章　学校体操教授要目の制定と内容
第12章　「学校体操教授要目」制定後の体育界の動向
第13章　大日本武徳会の設立と影響
第14章　学生武道の隆盛
第15章　改正学校体操教授要目の制定と内容

第4部　昭和20年以前の学校武道
第16章　精力善用国民体育と学校武道
第17章　柔・剣道が正課必修に
第18章　戦前の学生武道大会の発展
第19章　国民学校体錬科の登場
第20章　第二次大戦中の体錬科武道

第5部　戦後の学校武道
第21章　戦後の学校武道の禁止と復活
第22章　「格技」の誕生
第23章　格技から武道へ
第24章　中学校武道必修化の実現
第25章　これからの学校武道のあり方

発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

合気道に活きる

合気道九段　多田宏（ただひろし）　著

四六判・上製・402頁・本体2400円＋税

昭和初期に生れ、戦後の早大生時代に植芝盛平、植芝吉祥丸、船越義珍、中村天風、日野正一の諸先生の教えを受け、合気道の稽古を生涯の道と志す。

昭和から平成への激動の時代に、本部道場師範を務め、各大学に合気会を創設、自らの道場も主宰し、さらに欧州各国への普及に尽力。

合気道に活きた泰斗の軌跡を余すところなく示す珠玉の一冊。

多田　宏（ただ ひろし）

昭和4年（1929）12月14日生。東京都出身。早稲田大学第一法学部在学中の昭和25年、植芝道場に入門、合気道を始める。植芝盛平先生、吉祥丸先生に師事。同年、天風会入会、中村天風先生に師事。同年、一九会道場入会、日野正一先生に師事。昭和27年早稲田大学卒業。合気道の稽古と日本武道の歴史研究を専門とする道に進む。

合気道本部師範・防衛庁師範を務め、慶應義塾・学習院・早稲田の各大学合気道会設立に尽力、師範となる。昭和39年渡欧し、欧州各国での合気道普及に尽力。イタリア合気会を創設。

現在、合気会本部師範、早稲田大学合気道会名誉師範、東京大学合気道気錬会名誉師範、イタリア合気会主任教授、国際合気道連盟委員など。また、合気道多田塾を主宰。合気道九段。

目次

第一章　生い立ち
一　原点
二　幼稚園から小学校時代
三　第一東京市立中学校
第二章　師との出会い
一　松濤　船越義珍先生
二　植芝盛平先生・吉祥丸先生
三　中村天風先生
四　鉄叟日野正一先生・みち先生
第三章　生き方の方針
一　植芝道場　先輩の教え
二　命の基を訪ねて
三　一生の方針を定める
第四章　植芝盛平先生の教えと稽古
一　気の錬磨
二　合気道の心
三　心学の道、心法の道
四　稽古と法
五　稽古の目的、人の生き方
六　「機」について
七　錬る
八　自然な動き
九　場を主宰する
第五章　合気道の普及
一　合気道の発展
二　「気の流れ」の錬磨
三　ヨーロッパの合気道
四　合気道の国際的普及
五　気の流れと縁
第六章　呼吸法（調気の法）
終　章　稽古を顧みる

発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

選手権大会

普及発展を目指して

知的障がい者による柔道の普及発展と、さまざまな人々が互いに尊重し支えあう社会づくりを目指し、更なる目標を得る機会とすることを目的として、第1回全日本ＩＤ（知的障がい者）柔道選手権大会が開催された。

今大会は9月17日、東京・八王子市の日本文化大學・立志舘（りっしかん）において関係者を含め約350名が集まり、知的障がい者を対象に初の全国柔道大会として開かれたものである（主催＝全日本柔道連盟、後援＝全日本知的障がい者スポーツ協会・スペシャルオリンピックス日本〔以下、SON〕・日本文化大學）。

なお、前日の16日には選手以外の関係者も参加し、交流練習会が実施された。

■交流練習会（9月16日）

●計量・クラス分け

午前11時過ぎに選手と関係者が日本文化大學柔道場「立志舘」に続々と集合し、正午より選手計量、交流練習会のクラス分けが行われた。

集まった選手に練習会の前に柔道を始めたきっかけについて話を聞く

第１回全日本ＩＤ（知的障がい者）柔道

知的障がい者柔道の

ことができた。「親や先生から勧められて」が多かったが、中には「中学校の柔道授業を体験して興味を持ったから」、「護身術として役立つと思ったから」、「中学・高校でレスリングをやっていたので」、「心を強くするため」など。

●交流練習会

午後1時から行われた「交流練習会」には、ロンドン五輪男子60kg級銀メダリストの平岡拓晃（ひらおかひろあき）氏や柔道芸人のあいすけ氏をはじめ、年齢制限などで試合参加資格のない選手や日本文化大學柔道部のボランティア学生を含めて約90名が参加した。

準備運動に続き、基本的な動きがどこまで出来るかを確認するため、寝技、立技の補助運動が行われた。知的障がいの選手とボランティア学生がペアやグループを作り、クラス分けのための情報収集を目的としてゲーム感覚で楽しめる数種類の補助運動が実施された。

▽**補助運動①**　攻守の役割を分担し、守る方がうつ伏せ状態で腹の下にマーカーやボールを隠す。攻めが相手をひっくり返してそれを奪うというもの。寝技の攻防レベルを確認

多くの参加者が集まった交流練習会

監督会議で申し合わせ事項の最終確認を行った

乱取を通じて交流を深める平岡拓晃氏

選手たちは楽しみながら補助運動で汗を流した

するために実施された。

▽**補助運動②**　3人組で行う。2人は通常に組み合い、一方の帯にしっぽのように、もう一本帯を付ける。残った1人がそのしっぽを掴むというもの。組んだ状態でどれだけ相手をコントロールできるか、またしっぽを掴む上でどれだけ俊敏に動けるかを確認する目的で実施された。

交流練習会は音楽を流しながら行われ、参加者は終始和やかな雰囲気の中で汗を流した。

●クラス分け最終確認

続いて、ある程度の動きが確認できた段階でグループ分けを行った。大会運営委員は翌日の試合に向け、クラス分けの最終確認のため、寝技、立技の乱取を実施した。

●監督会議と組合せ決定

交流練習会終了後は、監督会議が開かれた。競技方法の確認では、国際柔道連盟試合審判規則のほか、障害者柔道試合審判規則及び本大会の申し合わせ事項を入念に確認した。さらに申し合わせ事項については、大会運営委員と監督とが意見を出し合い、安全を第一に考慮し、細部にわたる確認作業が行われた。

次のような内容が、申し合わせ事項に盛り込まれることとなった。

①選手が反則行為を行った場合、まずは口頭注意をする。口頭注意を受けた選手が同じ反則行為を行った場合には、指導を与える。

②投技を施した際、技をかけた選手が相手に体を預けたまま投げた場合は、ポイントを与えない。投げ切った後、体が乗っかってしまった場合はその限りではない。

③寝技における頸部への負担を軽減するため、特に袈裟固などは頭部を抱え込むことを禁止とする。頭部を抱え込んでいた場合は、抑込とは認めず、審判員がその選手の手を振り解いてから抑込を宣告し、時間の計測を始める。

監督会議での申し合わせ事項の確認を済ませ、クラス分けを行った後、主催者が組合せを決定した。

●情報交換会

その後は、大学セミナーハウス・さくら館に会場を移し、情報交換会が開催された。知的障がい者への指導法など活発な意見交換が行われ、集まった指導者は、有意義な時間を過ごした。

大浦敬汰選手の豪快な内股

山下泰裕会長の主催者挨拶（ビデオレター）

重安猛司選手の見事な一本勝

選手も一緒に Let's Dancing ！

■試合（9月17日）

●開会式

交流練習会にも参加した、あいすけ氏の司会で大会が始まった。

まず、開会に先立ち、今夏の自然災害の犠牲者へ黙祷が捧げられた。

はじめに中里壮也全日本柔道連盟専務理事が開会宣言、続いて山下泰裕全日本柔道連盟会長がビデオレターで主催者挨拶を行った。

「本日、日本で初めて開催される第1回全日本知的障がい者柔道選手権大会がこのように盛大に、また多くのご参加をいただき開催されますことは大変喜ばしく思います。全日本柔道連盟では、本年1月より教育普及・MIND委員会を発足し、その中に知的障がい者柔道振興部会を設立いたしました。障がいを越え、柔道に親しむ多くの皆様に柔道の楽しさや魅力をより一層感じ、柔道を通じて交流の和を広げていただきたく存じます。

柔道は若者や競技者だけのものではなく、男女問わず子どもからお年寄りまで、さらには障がいのある方が親しめるのが本来の柔道だと思っております。

海外の知的障がい者の柔道普及は日本より進んでおります。今後は日本での障がい者柔道の普及はもちろん、外国との柔道を通じた交流を実現したいと思っております。

本大会は柔道を通じて友達を作り、お互いを理解し尊重し合い、新たな柔道の和をつくる大会です。みなさん、頑張りましょう。

最後に『柔道 for All』を合言葉に本大会が成功裏に終了いたしますことを祈念いたします」

その後、来賓紹介では関根忍東京都柔道連盟会長、野村一路全日本知的障がい者スポーツ協会会長、三井嬉子スペシャルオリンピックス日本会長がそれぞれ挨拶に立った。引き続き、髙部勇翔選手が選手宣誓を行い、開会式は終了した。

●試合

試合は、当初参加資格レベルA・B・C（レベルAは一般の選手と同等に試合ができる者。レベルBはレベルAには劣るが、一般の選手と同等に乱取を行うことができる者。レベルCはレベルBには劣り、かなり制約があるが一般の選手と楽しむ程

度の乱取ができる者）に設定されていた。しかし、前日の交流練習会の選手の動きと監督会議で決定した申し合わせ事項等に鑑み、最終的には参加選手34名を9つのリーグに分けて、試合が行われることとなった。

選手は、仲間や保護者の声援を受け、持てる力を精一杯発揮した。障がいを持ちながらも、ひたむきに柔道に取り組む姿に、集まった観客からは、試合が終了する度に選手に大きな拍手が送られた。

昼食休憩の時間には、日本文化大學のダンスサークルによるダンスが披露された。選手たちは一緒になって踊り、楽しい時間を過ごした。

●閉会式

閉会式では、大会役員より参加全選手にメダルが授与された。続いて、野瀬清喜（のせせいき）全日本柔道連盟教育普及・ＭＩＮＤ委員会委員長が閉会宣言を行い、全日程が終了した。

最後に会場に集まった観客を含め関係者全員で記念撮影を行い、初開催となった第1回全日本ＩＤ（知的障がい者）柔道選手権大会は幕を閉じた。

▽濵名智男氏（全日本柔道連盟　知的障がい者柔道振興部会　部会長）

障がい者柔道を取り巻く環境としては、昨年10月にドイツ・ケルンで国際柔道連盟が世界大会を開催したことを受け、今年8月にヨーロッパ選手権大会も開催されました。

日本国内では昨年3月～5月に少年柔道協議会で全国の道場・クラブと中学校体育連盟、高等学校体育連盟を対象にアンケートを実施しました。今回の調査結果で55所属・112名の知的障がいを持つ選手がいることがわかりました。しかし、この数字にはかなり漏れがあると考えております。

全日本柔道連盟では、山下泰裕会長が中心となり、今年1月に知的障がい者柔道振興部会が設立され、本格的に始動しました。知的障がい者の方が柔道を行うことができる環境作りのため、これまでに海外から講師を招き指導者講習会を開催したり、実際に海外の大会視察を実施しております。

本大会は、まだ試行的な大会の段階で、指導法やルールを含めた大会運営など模索しているところです。当初は体重別・技能別で開催を予定していました。しかし、エントリー数の関係で、前日の交流練習会の様子を見て、クラス分けを行い、技能別での開催を決定しました。

私は知的障がい者と初心者への指導に差を感じたことはありません。知的障がいのある子どもは頸椎が弱い傾向にありますので、子どもの状態をしっかりと把握し、対応することで健常者の方と一緒に稽古できると考えております。

今後はこの大会を毎年開催することと、2年に一度開かれる世界大会に日本選手を派遣することを目標に努力していきたいと思います。

■本大会を振り返って

◎福田歩美也（ふくだふみや）選手
（海老名市柔道協会・SON神奈川）

「昨日は緊張してあまり眠れませんでした。試合内容には納得していません。課題は、自分の組手で技を出すことです。次に出場する大会で優勝したいです」

◎福田歩美也選手の保護者（母）

「柔道を始めたきっかけは兄と姉が先にやっていたことと、特に父親自身が柔道をやっていたことが大きいと思います。知的障がい以外に心臓にも病があり、柔道ができる状況ではありませんでした。

心臓の手術を受けて1年が経過した5歳の時に始めた柔道も今年で17年目になります。父親が側で見守れる環境だったからこそ、これだけの年月、続けることができたと思います。結果が出ない時期がありましたが、長く続けることで本人は自信がついたと思います。今では学生の時よりも柔道に夢中になっています。今後はケガなく、長く続けて欲しいです」

◎高江洲（たかえす）ケンゾウ選手
（河芸柔道クラブ）

「イメージトレーニングと打ち込みをしっかりやって試合に臨みました。普段は週3～5日くらい練習をしています。地元の高校生相手に自分の技を試しています。今後の目標は、オランダで行われる世界大会に出場し、優勝することです」

◎ボランティア学生Ⅱ
長谷部雄大さん（日本文化大學柔道部）

「以前開催されたSON神奈川大会の運営をきっかけに障がい者スポーツに興味を持ち、ボランティアとして参加しました。今回は特に大会前日の交流練習会をどう盛り上げるかが課題でした。恥ずかしがったり、初対面の人と話せない選手もいます。しかし、濱名先生の指導の下（もと）、以前から活動してきた経験を活（い）かして、上手（うま）く盛り上げることが出来たと思います。今後は、このような活動を通じて障がいのある選手が柔道を楽しめる環境作りはもちろんのこと、安全面の確保を意識して大会運営や障がい者柔道の指導に関わっていきたいと思います」

▽平岡拓晃氏（筑波大学准教授）

SON理事長の有森裕子さんから声をかけていただき、SONドリームサポーターとして活動を始めて3年目を迎えます。現在は茨城県でSON柔道レッスンを開催するため、SON公認柔道指導者資格の勉強をしています。

SON柔道は私が体験してきた柔道とは全くの別物で、楽しさの中に厳しさを学んでいると思います。

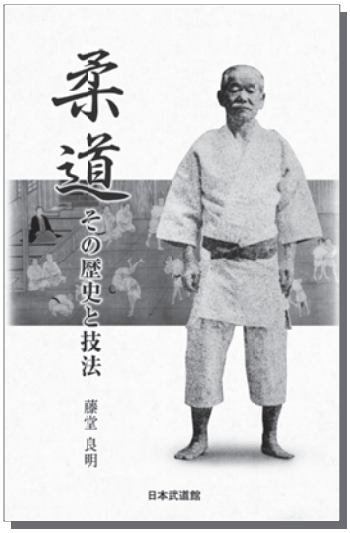
練習会に参加して毎回思うことは、実際に組んでみると非常にパワーがあります。単純に筋力というものだけではなく、今回は特に「本当に柔道が好きだ」という生きる力をぶつけてくれている感じがしました。

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 **藤堂 良明** 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。

武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた〝武道としての柔道〟を見失わないでいただきたいと願うものである。（本書「あとがき」より抜粋）

目 次

第一章 組討ちの起こりと技法
体術の起こりと技法
組討ちの体系化と技法

第二章 柔術諸流派の歴史と技法
竹内流腰廻
関口新心流柔術
起倒流柔術
起倒流柔道
直信流柔道
真之神道流柔術
天神真楊流柔術

第三章 講道館柔道の歴史と技法
講道館柔道の創設と技法
嘉納治五郎の乱取開発
講道館柔道の行事と整備
警視庁武術大会の勝利と技法
学校体操への柔道導入の試み
学校における柔道普及の実態
高専柔道の起こりと技法
嘉納治五郎の他武道への接近
精力善用国民体育の創案と技法
全日本柔道選士権大会の開催と技法

第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
第二次大戦中の柔道界と技法
第二次大戦後の柔道禁止と復活
格技柔道から武道柔道へ
女子柔道の競技化と技法

第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
柔道技法の変遷と特徴
柔道の国際的普及と発展
段位制度の国際比較
柔道の国際化と課題

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博（むかい　みきひろ）著

役に立つ
少年柔道指導法

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円＋税

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉
第1部　解説編
第一章　少年柔道は柔道指導の原点
第二章　基本動作の指導
第三章　技の指導
第四章　教育の中の柔道
第五章　指導の工夫
第六章　少年規定の変遷と問題点
第七章　柔道の安全指導
第八章　東日本大震災への講道館の対応
第九章　少年柔道の未来のために
第2部　実技編
第一章　礼法の指導
第二章　受け身の指導
第三章　基本動作の指導
第四章　トレーニング法の指導
第五章　柔道の練習法
第六章　投技の指導
第七章　固技の指導

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

平成30年度全日本学生柔道体重別選手権大会

男子は全階級で新王者が誕生
女子78kg級では泉真生が連覇達成

男子90kg級決勝戦＝田嶋剛希（上）が右腕一本で豪快な背負投を決める

平成30年度全日本学生柔道体重別選手権大会（男子37回　女子34回）が9月29日・30日、日本武道館において開催された。

試合時間は男女ともに4分間で行われ、勝負が決しない場合は、ゴールデンスコア（以下GS）による時間無制限の延長戦で勝敗を決した。

■男子

▽60kg級決勝

樋口裕大（一本背負投）清水夏輝

清水（日本体育）が序盤から試合を優位に進めるも、先に指導を受ける。清水は指導を受けてからギアを一段上げ、樋口（天理）を攻め立てる。清水の厳しい攻めに防戦一方の樋口。樋口は試合時間3分が経過する頃に、偽装攻撃と場外注意で指導2まで追い込まれる。後が無い樋口が勝負に出る。残り12秒、一本背負投で技有を奪い、そのまま試合終了。樋口が土壇場で逆転し、優勝を果たした。

▽66kg級決勝

山田聖斗（○背負投）牧野壮一郎

山田（桐蔭横浜）と牧野（天理）の試合は激しい組手争いから始まった。両者とも持ったらすぐに技を掛け、積極的な攻めを見せる。山田が指導2、牧野が指導1で迎えた残り39秒。ついに山田の背負投が牧野を捉える。牧野の体が綺麗に宙を舞い、一回転。山田が一本勝を収める。山田は今大会全6試合を戦い、5試合で一本勝した。さらに全試合を通して試合時間の4分以内で勝利したことが、山田の圧勝を印象付けた。

▽73kg級決勝

古賀颯人（一支釣込足）島田隆志郎

島田（國學院）は一昨年2位、昨年3位と好成績を残している実力者。対する古賀（日本体育）は、その島田と東京大会準々決勝で対戦し、合技で一本勝を収めている。この試合も組手に定評のある古賀が先に攻め、島田に圧力をかけていく。互いに決め手を欠き、本戦4分を両者指導2で終え、GSへ突入。GS開始31秒、島田が前に出てきたところを、古賀が支釣込足で上手く合わせ、技有を奪って優勝を決めた。

男子 73kg 級決勝戦＝古賀颯人（右）は島田隆志郎が前に出てきたところを支釣込足で合わせポイントを奪う

男子 60kg 級決勝戦＝樋口裕大（上）が終了間際に一本背負投で技有を奪取

男子 100kg 超級決勝戦＝太田彪雅（奥）が大内刈で攻める

男子 81kg 級決勝戦＝友清光（上）が意表をついた肩車で技有を奪う

▽81kg級決勝

友清光 ㊀肩車 釘丸将太

2年・友清と4年・釘丸の国士舘大同門対決となった。開始早々、釘丸が大外刈、背負投と積極的に技を出す。友清が必死に堪える。その後も釘丸は攻めの手を緩めない。釘丸は4分間攻め続けるも、ポイントを奪えず勝負は延長戦へ。指導2まで追い込まれた友清だったが、GS開始11秒に釘丸の意表を突くタイミングで肩車を仕掛ける。これが技有となり、先輩釘丸を破って、友清が初優勝を達成した。

▽90kg級決勝

田嶋剛希 ○背負投 横内晋介

田嶋が3年、横内が2年の筑波大同士の対戦となった。田嶋が右組、横内が左組のケンカ四つ。互いに引手が取れない。両者に対し、指導が与えられる。試合再開直後、田嶋が釣手のみの不十分な体勢から背負投を仕掛ける。田嶋はしっかりと背中で横内をコントロールし、一回転させ、豪快に一本を決め勝利する。田嶋が先輩の貫禄を見せつけ、初優勝を飾った。

▽100kg級決勝

伊藤好信 ㊀一本背負投 山下魁輝

シード選手が早々に敗退する中で接戦を制して勝ち上がってきたのは伊藤（東海）と山下（国士舘）。試合が動いたのは2分44秒。伊藤は、山下が奥襟を掴もうと前に出てきたところを逃さず、一本背負投に切り返し、技有を奪取する。リードされた山下が一気に攻勢に出る。伊藤の我慢の時間が続く。残り時間8秒で、伊藤に指導が与えられるも、そのまま試合が終了。伊藤が逃げ切り、初優勝を果たした。

▽100kg超級決勝

太田彪雅 ○体落 竹村昂大

優勝候補の太田（東海）と昨年3位の竹村（国士舘）が対戦。太田は右の釣手で相手をコントロールし、竹村の自由を奪う。太田は得意の内股を軸に攻めるが、技が決まらない。試合時間2分過ぎに、太田は大内刈で竹村を追い込むと、次の瞬間、前に引き出し、体落に移行。竹村はこの連絡技に反応できずに、たまらず一回転。太田が評判通りの実力を発揮し、初優勝した。

女子 52kg 級決勝戦＝立川莉奈（上）が
武田亮子の大内刈を返してポイントを奪う

女子 57kg 級決勝戦＝竹内鈴（上）が大外刈で一本勝

■女子

▽48kg級決勝
小倉　葵　○棄権勝　安部風花

3年・小倉と1年・安部の環太平洋同士の対戦。先輩の小倉が先に仕掛ける展開。負けじと安部も奥襟を摑み、有利な体勢を作りに行く。しかし安部に不運が訪れる。安部が背負投を仕掛け、小倉が躱した直後、安部の顔面が小倉の頭部と激突。安部はその場で仰向けに倒れ、起き上がれない。安部はそのまま担架で運ばれ棄権となり、小倉の優勝が決定した。

▽52kg級決勝
立川莉奈　㊀大内返　武田亮子

昨年2位の福岡の立川と、厳しい関西予選を1位で突破した龍谷の武田が対戦。立川が右組、武田が左組のケンカ四つ。序盤から互いに足を出し、相手を牽制する。立川は不十分な組手でも先に技を出し、武田に圧をかける。武田は指導2まで追い込まれる。GSに入り、武田が強引に仕掛けると、立川は体を預けるように押し倒す。これが技有のポイントとなり優勝を決めた。立川の優勝は、福岡大として第10回大会の61kg級・中橋治美氏以来、23年ぶり。

▽57kg級決勝
竹内　鈴　○大外刈　香川瑞希

東海大3年・竹内と1年・香川の同門対決。右組同士、がっぷり四つで組み合う。互いに一歩も引かず、序盤から積極的に技を出す。試合開始1分30秒、香川が前に出てきたところを、竹内が大外刈で上手く合わせ一本を奪った。後輩の挑戦を跳ね返し、先輩の竹内に軍配が上がった。竹内が昨年2位の悔しさを晴らし、初優勝を飾った。

▽63kg級決勝
佐藤史織　○反則負　幸田奈々

昨年2位の佐藤（山梨学院）と、幸田（帝京科学）が対戦。幸田が奥襟を取って組手争いで優位に立ち、試合の主導権を握る。しかし、試合の中盤に入ると幸田の組手に順応した佐藤が徐々にペースを摑む。両者が指導1のまま、本戦4分が終了。GSに入っても佐藤は攻め続け、GS開始2分34秒、幸田に3つ目の指導が与えられ、幸田の反則負。佐藤が昨年の雪辱を果たした。

▽70kg級決勝
嶺井美穂　○小外掛　朝飛七海

同門・桐蔭横浜の先輩後輩対決。試合はいきなり動く。開始18秒で1年の朝飛が3年の嶺井から小外刈で技有を先取する。しかし、開始45秒に嶺井が鮮やかに大内返で技有を奪い返し、同点に追いつく。その後、嶺井は指導を2つ累積する。GSに入り1分が過ぎたところで、嶺井が右手で奥襟を摑み、小外掛で技有を奪い、合技一本勝。先輩の意地を見せ、大逆転での嬉しい初優勝を飾った。

▽78kg級決勝
泉　真生　○横四方固　鈴木伊織

大会連覇を狙う泉（山梨学院）と昨年3位の鈴木（環太平洋）が対戦。泉は序盤から鈴木の奥襟を摑み、頭を下げさせ、技を仕掛ける。泉は鈴木が中途半端な体勢で仕掛けてきたところを見逃さず、支釣込足に切り返し、技有を奪う。そのまま横四方固でがっちり抑え込み、合技一本。

女子 70kg 級決勝戦＝嶺井美穂（上）が逆転の小外掛を決める

女子 78kg 級決勝戦＝
泉真生（奥）が大内刈で攻める

圧巻の強さで2連覇を達成。泉は全日本学生柔道大会における団体・個人の2冠を達成した。

▽**78kg超級決勝**

秋場麻優（あきばまや）　○**反則負**　**井上**（いのうえ）**あかり**

秋場が3年、井上が4年の環太平洋大の同門対決。互いの手の内を知り尽くしているため、攻めることができない両者に開始55秒で指導が宣告される。その後も互いに譲らず技を仕掛けるが決まらない。延長戦に入り、GS1分59秒で両者に2つ目の指導。これをきっかけに秋場が勝負に出て、先に技を仕掛ける。GS3分28秒、受けに回っていた井上に3つ目の指導が与えられ、試合終了。秋場が昨年女王の井上を破り、初優勝を果たした。

【大会結果】

■男子

▽**60kg級**①樋口裕大（天理）②清水夏輝（日本体育）③森田将矢（鹿屋体育）、石川勇太（日本体育）

▽**66kg級**①山田聖斗（桐蔭横浜）②牧野壮一郎（天理）③湯本祥真（筑波）、長谷川雷（筑波）

▽**73kg級**①古賀颯人（日本体育）②島田隆志郎（國學院）③込山龍哉（東海）、原田健士（日本体育）

▽**81kg級**①友清光（国士舘）②釘丸将太（国士舘）③川端悠生（国士舘）、山中堅盛（東海）

▽**90kg級**①田嶋剛希（筑波）②横内晋介（筑波）③白川剛章（筑波）、長井晃志（日本体育）

▽**100kg級**①伊藤好信（東海）②山下魁輝（国士舘）③石山潤平（天理）、古田伸悟（天理）

▽**100kg超級**①太田彪雅（東海）②竹村昂大（国士舘）③奥野拓未（東海）、石川智啓（東海）

■女子

▽**48kg級**①小倉葵（環太平洋）②安部風花（環太平洋）③常見千紗（帝京科学）、有野涼（龍谷）

▽**52kg級**①立川莉奈（福岡）②武田亮子（龍谷）③萩野乃花（国士舘）、中内柚里（龍谷）

▽**57kg級**①竹内鈴（東海）②香川瑞希（東海）③大和久友佳（山梨学院）、飯塚亜美（仙台）

▽**63kg級**①佐藤史織（山梨学院）②幸田奈々（帝京科学）③岡田萌（山梨学院）、米澤夏帆（龍谷）

▽**70kg級**①嶺井美穂（桐蔭横浜）②朝飛七海（桐蔭横浜）③杉山歌嶺（桐蔭横浜）、青柳麗美（環太平洋）

▽**78kg級**①泉真生（山梨学院）②鈴木伊織（環太平洋）③松田なみき（金沢学院）、清水美緒（金沢学院）

▽**78kg超級**①秋場麻優（環太平洋）②井上あかり（環太平洋）③岡田実咲（山梨学院）、浜未悠（環太平洋）

日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

（B5判・236頁）

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》
序章　武道のすすめ
　松永光（日本武道館）／高村正彦（武道議員連盟）／有松育子（文部科学省）
第1章　いざ！　武道の世界へ
第2章　柔道のすすめ
　大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人
第3章　剣道のすすめ
　森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋
第4章　弓道のすすめ
　森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝
第5章　相撲のすすめ
　塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男
第6章　空手道のすすめ
　金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士
第7章　合気道のすすめ
　多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁
第8章　少林寺拳法のすすめ
　合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也
第9章　なぎなたのすすめ
　澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美
第10章　銃剣道のすすめ
　桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之
第11章　古武道のすすめ
　竹内藤十郎（柔術）／笹森建美（剣術）／加藤伊三男（槍術）／小笠原清忠（弓馬術）
日本武道館の歴史

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

今、なぜ武道か
―文化と伝統を問う―

福島大学教授
中村 民雄 著
（四六判・上製・370頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
（四六判・上製・410頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
（四六判・上製・376頁）

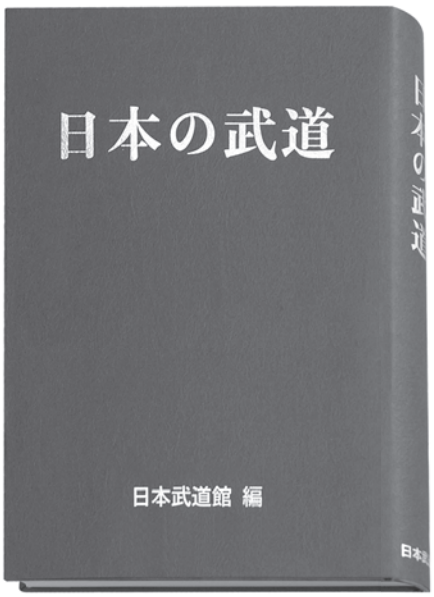
日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本武道館 編

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、各武道統括団体の全面協力によって完成!!

一千数百年の歴史を有する武道の全容をこの一冊に集大成!! 武道小百科事典としても役立つ充実した巻末の資料編!!



（B5判・上製・箱入・526頁）

決勝・先鋒戦＝富士ゼロックス・米満（右）が上段から片手面を決める

第 61 回全日本実業団剣道大会

富士ゼロックス（本社）が25年ぶりの頂点に

準決勝①・大将戦＝勝負がかかった大将戦で勝利したパナソニック・足達（左）

準決勝②・大将戦＝富士ゼロックス・北川（左）対NTT・齊藤

第61回全日本実業団剣道大会（主催＝全日本実業団剣道連盟、後援＝日本武道館ほか）が9月17日に、日本武道館で開催された。大会には全国から381チームが参加し、各試合場で熱戦が繰り広げられた。

決勝は、富士ゼロックス（本社）とパナソニック（ES本社）が対戦。3―1で富士ゼロックス（本社）が25年ぶり3回目の優勝を果たした。

試合は5人制の団体戦。試合時間は準々決勝までは3分、準決勝・決勝は4分で行われる。勝敗は勝者数で決し、同数の場合には総本数で決める。勝者数・総本数ともに同数の場合は、代表者戦で勝敗を決する。

◇準々決勝

準々決勝には、パナソニック（ES本社）、九州電力（本店）、三井住友海上（神田）、トールエクスプレスジャパン（本社）、富士ゼロックス（本社）、東芝テック（本社）、NTT（本社）、東京海上日動（本店）が名を連ね、パナソニック、トールエクスプレスジャパン、富士ゼロックス、NTTが準決勝に進出した。

◇準決勝①

パナソニック（ES本社）　2―1　トールエクスプレスジャパン（本社）

先鋒	吉村大地	×	糸山泰史
次鋒	山田侑希	×	對馬康大
中堅	勝見健太	コ―反コ	吉田真佐義
副将	髙　優司	コ―	安藤　淳
大将	足達翔太	メ―	石井秀平

先鋒戦、次鋒戦は引分。中堅戦ではパナソニック・勝見が小手を決めて先制する。負けじとトールエクスプレスジャパン・吉田も、すぐさま小手を取り返す。その後、勝見が竹刀を落として反則が与えられる。終盤、鍔競り合いが続くと、時間空費として勝見に2回目の反則がつき、吉田が二本勝。

副将戦は、パナソニック・髙が表から攻めて小手に飛び込み、これが一本となる。そのまま時間となり、髙が一本勝。

勝負がかかった大将戦、後半に鍔競り合いから間合を切った瞬間、パナソニック・足達が値千金の飛び込み面を決める。残り時間も足達が捌き切り勝利。パナソニックが3連覇に王手をかけた。

◇準決勝②

富士ゼロックス（本社）　2―1　NTT（本社）

先鋒	米満広将	コ―	榎本雄斗
次鋒	岩川　力	×	竹越　充
中堅	東郷知大	×	渡部　晃
副将	上原祐二	―コ	兵藤裕則
大将	北川清太	コメ―コ	齊藤将吾

先鋒戦、中盤にNTT・榎本が足を止めた瞬間、富士ゼロックス・米満が上段から片手小手を振り下ろすと、旗が3本上がる。その後も米満が榎本の攻めを凌ぎ切り、一本勝。

次鋒戦、中堅戦は引分。副将戦、NTT・兵藤は富士ゼロックス・上原が居着いた瞬間に、小手を先取する。そのまま一本勝を収め、勝負は大将戦に持ち越される。

大将戦、NTT・齊藤が一足一刀の間合から力強い小手を先取する。後がない富士ゼロックス・北川は間合を切って果敢に攻め、齊藤が手元を上げた隙に小手を打ち込み、追いつく。終盤、齊藤が鍔競り合いに持ち込もうと間合を潰した瞬間、北川が巧みに引き面を決めて逆転勝ち。富士ゼロックスが決勝に進出した。

決勝・中堅戦＝富士ゼロックス・東郷（左）が面を決める

決勝・副将戦＝富士ゼロックス・上原（右）が引き面で勝負を決めた

◇決勝

富士ゼロックス（本社）	3―1	パナソニック（ES本社）	
先鋒	米満広将	メ―	吉村大地
次鋒	岩川　力	―コ	山田侑希
中堅	東郷知大	メ―	勝見健太
副将	上原祐二	メ―	髙　優司
大将	北川清太	×	足達翔太

25年ぶりの優勝を目指す富士ゼロックス（本社）と3連覇がかかったパナソニック（ES本社）による決勝戦。

先鋒戦の試合序盤、富士ゼロックス・米満が、パナソニック・吉村の面の打ち終わりに、引き小手を打ち込むものの旗は1本のみ。その後も、米満が上段からの思い切った技で試合を優位に進める。終盤、米満が捨て切った片手面を繰り出すと、吉村を捉え、一本勝で次鋒に繋げる。

次鋒戦はパナソニック・山田が序盤から積極的に技を出して攻めていく。中盤、山田が前に詰めて圧をかけると、富士ゼロックス・岩川がたまらず面に飛ぶ。その出ばなに山田が小手を打ち込み、一本勝。勝負を五分に戻す。

中堅戦、富士ゼロックス・東郷は開始から足を使って軽快に攻め、パナソニック・勝見は東郷を捉えることができない。中盤に勝見が東郷を試合場際に追い込み、小手に飛び込むも、東郷はそれを返して面を打ち込み、先取する。そのまま一本勝となった。

副将戦は37歳の富士ゼロックス・上原と28歳のパナソニック・髙による中央大学の先輩・後輩対決。試合は、開始から互いに相手の動きを読み合い、静かに試合が流れていく。中盤、髙が居着いたところに上原が引き面を繰り出すと、これが一本。取り返したい髙は強引に攻めていくが、上原は冷静に凌いで試合終了。ベテランの一本が25年ぶり3回目の優勝を決めた。

大将戦は、両者とも慎重に攻め合い、隙を探り合うも引分で試合終了。

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

◎優勝＝富士ゼロックス（本社）
野口淳司（のぐちじゅんじ）監督

「関東では勝てるのですが、全日本ではなかなか勝てていなくて…。選手たちとなぜ勝てないのか、よく話し合いました。今年は特に選手たちの意見を尊重しました。彼らのモチベーションが上がるように、自分たちで考えてくれた結果なのかなと思います。今日は美味（おい）しいお酒が飲めそうです。選手たちには『ありがとう』と伝えたいですね」

優勝した富士ゼロックス（本社）の選手と監督

◎最優秀選手賞＝富士ゼロックス（本社）
上原祐二（うえはらゆうじ）選手

「稽古を行えば試合もできますし、正直、今日もまだ体は動きます。37歳になりましたが、動きが劣っているという感覚は全くありません。キャプテンの岩川を中心に、優勝を狙えるチームで、そこに私の経験を活（い）かすことができて、この結果になったのだと思います。子どもが剣道を始めたので、今日の結果は子どもに自慢できますね（笑）」

【大会結果】

◎優　勝＝富士ゼロックス（本社）
○準優勝＝パナソニック（ES本社）
▽3　位＝NTT（本社）
　トールエクスプレスジャパン（本社）
▽敢闘賞＝東芝テック（本社）
　九州電力（本店）
　東京海上日動（本店）
　三井住友海上（神田）

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授　田代しんたろう　著

B5判・302頁・本体1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎（柔道）、高野佐三郎（剣道）、阿波研造（弓道）、双葉山（相撲）、船越義珍（空手道）、植芝盛平（合気道）、宗道臣（少林寺拳法）、園部秀雄と三田村千代（なぎなた）、鵜沢尚信（銃剣道）

ご注文・お問い合わせ　日本武道館 月刊「武道」編集部　〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

役に立つ少年剣道指導法

山神眞一 著
（香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段）

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。

付録のＤＶＤには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間１１５分を超える映像で紹介。

解説ＤＶＤ付属！

Ａ５判・並製・
２５６頁・ＤＶＤ付・
本体２４００円＋税

目　次

第一章　一眼～子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声

第二章　二足～少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る

第三章　三胆～指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意

第四章　四力～技の力を学ぶ
剣道のアイスブレーキング／礼法について～立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの段階的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方

第五章　残心
海外での剣道事情／中学校における剣道授業

あとがき

編集・発行　公益財団法人 日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

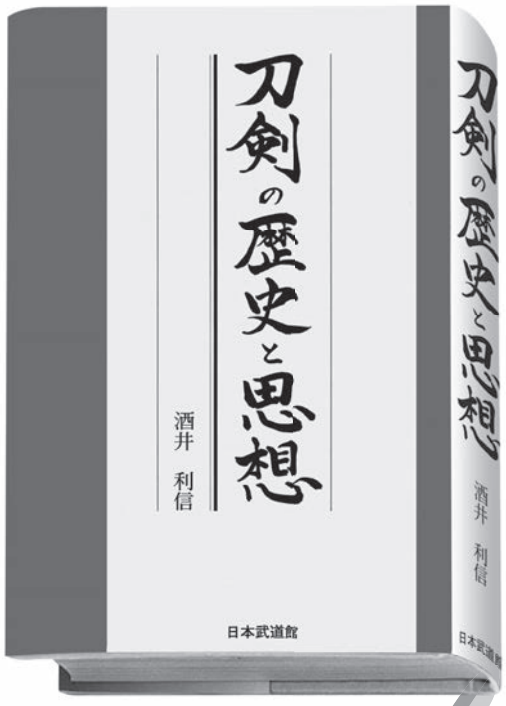
お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

刀剣の歴史と思想

筑波大学教授　酒井利信　著

四六判・上製・346頁・本体2400円＋税



題字揮毫―鹿島神宮　鹿島則良　宮司

刀剣を単なる武器としてではなく、神聖なものとして捉える思想とは何か―

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目　次

序　章
第一節　探求の旅をはじめるにあたって
第二節　刀剣の歴史
第一章　刀剣思想の源流
第一節　古代中国の宝剣伝説　太阿の剣
第二節　干将莫耶の宝剣伝説
第三節　高祖の斬蛇剣
第四節　道教と剣
第五節　古代朝鮮の刀剣思想
第二章　神話的イメージの形成
第一節　神話的世界の形成と剣神の誕生
第二節　天より降る剣　一師霊剣
第三節　天地を繋ぐ剣　草薙剣
第三章　信仰のなかの刀剣思想
第一節　祀る剣　祀られる剣
第二節　辟邪の呪剣
第三節　うけいの呪術と剣
第四節　修験道と剣
第四章　中世における刀剣思想
第一節　三種の神器の不思議
第二節　『平家物語』にみる三種の神器
第三節　『太平記』が語る草薙剣像
第五章　近世剣術における刀剣思想
第一節　剣術伝書に語られる日本神話
第二節　新當流にみる霊剣の技術
第三節　示現流にみる心の利剣
第四節　近世剣術における刀剣思想の展開
第六章　近現代における刀剣思想
第一節　近代以降の刀剣思想
第二節　古代と現代を繋ぐ刀剣
～鹿島神宮日本刀奉納鍛錬～
終　章　～稽古照今～

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

平成30年度全国警察柔道・剣道選手権大会

平成30年度全国警察柔道・剣道選手権大会（主催＝警察庁）が9月25日、日本武道館で開催された。

柔道男子は7階級で争われ、100kg超級は村上拓（愛知）、100kg級は松雪直斗（福岡）、90kg級は木下智貴（警視庁）、81kg級は中園史寛（福岡）、73kg級は村上洋平（大阪）、66kg級は西山祐貴（警視庁）、60kg級は浅見喜尚（愛媛）がそれぞれ優勝した。柔道女子は4階級で争われ、70kg超級は藤原恵美（大阪）、70kg級は赤嶺麻佑（沖縄）、63kg級は谷内美希（大阪）、52kg級は益子楓彩菜（警視庁）がそれぞれ優勝を果たした。

剣道男子は、決勝で西村英久（熊本）が内村良一（警視庁）を降して初優勝。剣道女子は、松本弥月（神奈川）が山本瑶子（大阪）を破ってこちらも初優勝を飾った。

柔道男子100kg級決勝＝松雪（上）対辻本

柔道女子63kg級決勝＝谷内（左）対荒木

柔道

男子100kg級　松雪直斗（福岡）
女子63kg級　谷内美希（大阪）が初優勝

◇男子100kg級

男子100kg級の決勝は初優勝を狙う松雪直斗（福岡）と3度目の優勝がかかる辻本拓記（兵庫）の対戦。序盤から辻本が積極的に攻めの姿勢を見せ、松雪は消極的指導を与えられる。しかしその後、松雪も技を仕掛けようと積極的に攻め、辻本を畳へ倒す。そして試合開始から2分30秒、松雪が〝亀〟になっていた辻本をひっくり返し、崩上四方固めで一本勝。松雪が嬉しい初優勝を飾った。

◎優勝＝松雪直斗選手（福岡）

「今日の試合は本当に疲れました。ずっと怪我で練習ができていなかったので、この大会で優勝できたのがとても嬉しかったです。初めて講道館杯に出場することが決まったので、次に繋がる試合になるように頑張りたいと思います」

◇

◇女子63kg級

女子63kg級決勝は、昨年3位の谷内美希（大阪）と3連覇がかかる荒木穂乃佳（兵庫）の対決。序盤、谷内が積極的に組む姿勢を見せ、荒木に消極的指導が与えられる。荒木も負けじと、試合開始から3分40秒、谷内の奥襟を摑み、技を仕掛けるも、決まらず。そして、両者攻防を続け、そのまま延長戦へ突入。この時点で荒木に指導2、谷内に指導1が与えられている。試合が決着したのは開始から14分後。お互い疲弊している中、果敢に技をかける姿勢を見せた谷内に軍配が上がり、荒木へ3つ目の指導が与えられ、反則勝。谷内が荒木の3連覇を阻止し、初優勝を飾った。

◎優勝＝谷内美希選手（大阪）

「率直に嬉しい気持ちです。決勝で戦った荒木選手は、昨年負けている相手だったので、勝つぞという強い気持ちで挑みました。今後は、次の大会でも上位を目指して頑張りたいと思います」

剣道

男子
女子

西村英久（熊　本）
松本弥月（神奈川）が初優勝

◇**男子**

決勝戦は、準々決勝で昨年王者の安藤翔（北海道）を破った西村英久（熊本）と、昨年の全日本選手権で準優勝した内村良一（警視庁）の対決となった。序盤から一進一退の攻防が続く。試合開始から3分40秒、西村が内村の隙を狙って面を決め、一本。念願の初優勝となった。

◎**優勝＝西村英久（にしむらひでひさ）選手（熊本）**

「嬉しい反面、世界大会で力を出せなかった申し訳なさが入り混じった複雑な心境でした。世界大会の個人戦で悔しい思いをしましたが、自分の背中を押してくれた人たちの気持ちに応えて頑張りたいと思い、今大会に臨みました。次は、警察の団体戦と全日本選手権で優勝できるように頑張っていきます」

剣道男子決勝＝西村（左）対内村

◇

◇**女子**

決勝戦には準々決勝で昨年の覇者、山本真理子（大阪）を破った山本瑶子（大阪）と、9月に行われた世界剣道選手権で優勝した松本弥月（神奈川）の対決。序盤からお互いに激しく攻め合うも、なかなか一本にならず。勝敗が決したのは試合開始から4分40秒。鍔競（つばぜ）り合（あ）いから山本の隙を見た松本が素早く小手を決め、一本。世界女王としての強さを見せつけた。

剣道女子決勝＝松本（右）対山本

◎**優勝＝松本弥月（まつもとみづき）選手（神奈川）**

「2日前に全日本女子剣道選手権があったのですが、自分の思うような試合ができなかったので、今回は意地でも勝ちたいという気持ちを前面に出しました。今後は一つ一つの大会で勝つことを目標に頑張ります」

【大会結果】

■柔道

◇**男子**　▽**100kg超級**＝①村上拓（愛知）②名垣浦佑太郎（警視庁）③西尾徹（大阪）、影野裕和（愛媛）▽**100kg級**＝①松雪直斗（福岡）②辻本拓記（兵庫）③江原拓巳（埼玉）、小林大介（岐阜）▽**90kg級**＝①木下智貴（警視庁）②西本幸弥（福岡）③地﨑亮祐（千葉）、盛田勝義（鹿児島）▽**81kg級**＝①中園史寛（福岡）②遠江幸佑（佐賀）③一戸勇人（北海道）、山下恭平（皇宮）▽**73kg級**＝村上洋平（大阪）②宮山翔多（大阪）③小寺将史（警視庁）、細木智樹（皇宮）▽**66kg級**＝①西山祐貴（警視庁）②藤阪太郎（大阪）③久間康寛（警視庁）、吉田惟人（神奈川）▽**60kg級**＝①浅見喜尚（愛媛）②松本拓（千葉）③泉谷僚児（兵庫）、守安大介（岡山）

◇**女子**　▽**70kg超級**＝藤原恵美（大阪）②山中満紀（警視庁）③岡村智美（熊本）、小島ひかる（滋賀）▽**70kg級**＝①赤嶺麻佑（沖縄）②市川香代子（宮城）③石毛春奈（宮城）、矢澤紗瑛（埼玉）▽**63kg級**＝①谷内美希（大阪）②荒木穂乃佳（兵庫）③黒木和世（大阪）、松尾美咲（警視庁）▽**52kg級**＝①益子楓彩奈（警視庁）②増田沙由美（警視庁）③北川真奈（埼玉）、小泉友香理（滋賀）

■剣道

◇**男子**＝①西村英久（熊本）②内村良一（警視庁）③土谷有輝（大阪）、精松慎治（埼玉）

◇**女子**＝①松本弥月（神奈川）②山本瑶子（大阪）③西柚衣（茨城）、豊丸芳（大阪）

好評発売中

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！

漫画家
別府大学客員教授
田代しんたろう 著

B5判・並製・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。
人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。
大人も子どもも読んで楽しく、歴史も学べる武道教養マンガ。

収録偉人一覧

嘉納治五郎（柔道）　高野佐三郎（剣道）　阿波研造（弓道）　双葉山（相撲）
船越義珍（空手道）　植芝盛平（合気道）　宗道臣（少林寺拳法）
園部秀雄と美田村千代（なぎなた）　鵜沢尚信（銃剣道）

編集・発行　公益財団法人日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野　純 著

（四六判・上製・410頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授　**田代しんたろう 著**

（B5判・236頁）

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は４話を掲載！

多田宏先生

磯山博先生

菅沼守人先生

東北大学学友会合気道部

平成30年度全国都道府県対抗銃剣道大会

成年の部決勝・中堅戦＝東京都・福田（左）が石川県・川村を攻める

成年の部 東京都が初優勝を飾る

少年の部 女子の部 ともに香川県が優勝

平成30年度全国都道府県対抗銃剣道大会（主催＝全日本銃剣道連盟、後援＝日本武道館ほか）が9月22日、日本武道館で開催された。

本大会は2015年より、国体の銃剣道競技が実施されない年に開催されており、今年で第2回を迎えた。また、今大会からは女子の団体戦が公開競技として初の実施となった。試合は、成年の部（47チーム、選手・監督166名）、少年の部（29チーム、115名）、女子の部（36チーム、123名）の3部門でそれぞれ優勝を競った。

成年の部では東京都が、少年の部・女子の部では香川県がそれぞれ優勝を果たした。また、成年の部・少年の部の成績（参加得点と各種別競技得点の合計）で総合成績を決定し、東京都、香川県、石川県が同率優勝となった。

試合はトーナメント方式、5分間の3本勝負。試合時間内に勝負が決しない場合は、旗判定により勝敗を決し（決勝戦のみ2分間の延長戦を1回実施）、勝者数の多いチームを勝ちとした。

成年の部決勝・先鋒戦
＝東京都・江良（右）が角に下胴を決める

成年の部決勝・次鋒戦
＝東京都・福田（左）が川村に上胴を決める

成年の部・優勝＝東京都
前列左から先鋒・監督＝江良将人、次鋒＝福田賢二、大将＝山崎泰弘

■成年の部（3人制・47チーム）

各試合場のトーナメントを勝ち上がり、準決勝に進んだのは静岡県、石川県、東京都、高知県の4チーム。準決勝では、石川県が静岡県を2―1で、東京都が高知県を2―1で降し、ともに初優勝をかけた決勝へ。

▽決勝

東京都　2―1　石川県

江良将人　上下―　角　能充

福田賢二　上―　川村貴嗣

山崎泰弘　―上　石川治樹

先鋒戦は東京都・江良対石川県・角。試合序盤、角が突きを繰り出すが江良はそれをうまく躱し、一本を取らせない。その後、江良は何度もフェイントをかけ、角が木銃を上げたところに上胴を決め、一本。後がなくなった角も負けじと攻めるが一本ならず。そして、試合開始から3分後、江良が近間から引いた瞬間に下胴を決め、二本勝。東京都が先勝する。

続く中堅戦は東京都・福田と石川県・川村の対戦。先に技を仕掛けたのは川村。福田へ勢いよく上胴を繰り出すが、突きの当たりが甘く、旗は上がらない。その後、本戦で決着がつかず、試合は延長戦へともつれ込んだ。そして、延長開始から20秒後。川村が上胴を突こうとした瞬間に福田はその隙へ上胴を決め、一本。この時点で東京都の初優勝が決定した。

大将戦は東京都・山崎と石川県・石川の対決。山崎が後ろに下がった瞬間に石川が勢いよく上胴を突き、一本。そのまま、試合終了となり、石川が一本勝。大将としての意地を見せた。

◎優勝＝東京都・江良将人監督（先鋒）

「都道府県大会や国体などの3人制大会で1回も準優勝・優勝をしたことがなかったので、本当に光栄です。自分が監督で一番先輩だったので、先鋒として絶対1勝を取ってくるという気持ちで試合に臨みました。チームのメンバーを信じて優勝できたことが本当に嬉しいです。次の目標は全日本銃剣道優勝大会史上初の4回目の優勝に向けて頑張っていきたいと思います」

少年の部決勝・大将戦
＝香川県・内藤（右）が下胴を決める

少年の部決勝・中堅戦
＝香川県・河﨑（右）が下胴を決める

少年の部・優勝＝香川県
前列右から監督＝石川慎也、先鋒＝山口楓太、中堅＝河﨑要甫、大将＝内藤介斗

■少年の部（3人制・29チーム）

▽決勝

香川県　3―0　北海道
山口楓太　判―　寒河江優斗
河﨑要甫　下上―　堀口　響
内藤介斗　下下―　堀口　授

先鋒戦は香川県・山口と北海道・寒河江（さがえ）の対決。試合序盤、寒河江が山口を激しく攻めるが、山口はそれを冷静に捌（さば）く。その後もお互いに攻防を続けるが、なかなか一本は決まらない。そして、そのまま本戦・延長戦が終了し、勝負の行方は判定に委ねられた。判定は白旗が3本上がり、香川県・山口が勝利した。

続く中堅戦、香川県・河﨑と北海道・堀口（響）の対戦。先に技を仕掛けたのは河﨑。堀口（響）へ鋭い下胴を突き、一本。後がなくなった堀口（響）は果敢に攻めの姿勢を見せるも、旗は上がらず。その後、堀口（響）が再度、前に出た瞬間に河﨑はその隙へ上胴を決め、二本勝。この時点で香川県の優勝が決定する。

大将戦は、北海道・堀口（授）と香川県・内藤の顔合せ。両者、試合開始の合図と同時に下胴へ飛び込んだ。旗は白旗が3本上がり、内藤が先取。その後、内藤が鋭い下胴を決め、二本勝となる。香川県は前回王者としての貫禄を見せつけた。

◎優勝＝香川県・山口楓太選手

「7月の高校生大会で優勝していたので、絶対に2冠獲るという気持ちが強かったです。この大会に向けては、団結力とチームワークを心がけてきました。これからも銃剣道を続けていきたいと思っているので、他の大会でも上位に食い込めるよう、稽古に励んでいきたいと思います」

◎優勝＝香川県・石川慎也監督

「男子のチームは高校生大会でも優勝していたので、絶対2冠を獲るという気持ちで、驕（おご）ることなく練習を積み重ねてきました。高校生大会が終わってから、基本に立ち返り練習をしっかりできたのが、今回の結果に繋（つな）がったと思います。この大会に向けて諦めるな、粘り強く行けと練習の中から言い聞かせてきました。明日からはまたゼロからのスタートで頑張っていきます」

女子の部決勝・先鋒戦＝香川県・森（右）が下胴を決める

女子の部決勝・中堅戦＝香川県・松本（左）が攻める

女子の部・優勝＝香川県
前列右から監督＝石川慎也、先鋒＝森夏海、中堅＝松本亜衣奈、大将＝吉見風香

■女子の部（3人制・36チーム）

▽決勝
香川県　3―0　三重県
森　夏海　下上―　山田麻耶
松本亜衣奈　下―　山本　彩
吉見風香　上上―　森　万弥

先鋒戦は香川県・森と三重県・山田の対戦。試合開始と同時にお互い突きを繰り出すと白旗2本、赤旗1本が上がり、森が先制する。その後、試合開始から2分40秒後、森は、素早く上胴を決め、二本勝。香川県がリードする。

続く中堅戦は、香川県・松本対三重県・山本。試合開始直後、松本が間合いをつめ、そのまま下胴を決める。その後も一進一退の攻防を繰り返すも技は決まらず、試合終了。この時点で香川県の優勝が決定。

大将戦は、香川県・吉見と三重県・森の顔合せ。先に勝負を仕掛けたのは森。互いに突き合う中で上胴を繰り出すが旗は一本しか上がらない。その直後、吉見が一瞬引いた森へ上胴を決め、一本先取。勢いに乗った吉見は森に再度上胴を繰り出し、二本勝。〝高校生チーム〟の香川県が、〝自衛官チーム〟の三重県を下し、優勝を果たした。また、香川県は少年の部に続き、女子の部の決勝戦においても3勝。圧倒的な強さを見せつけた。

◎優勝＝香川県・森夏海選手

「優勝出来たことが非常に嬉しかったです。大会が少ないので練習を休まず、毎日一つ一つ目標を持って練習してきました。決勝戦は自衛官が相手だったので、負けるかなと思いましたが、仲間を信じていたので、一本取った瞬間、行けるなと思いました。銃剣道で学んだことを生かしてこれからも頑張っていきます」

【大会結果】

■成年の部
①東京都　②石川県　③静岡県

■少年の部
①香川県　②北海道　③宮城県

■女子の部
①香川県　②三重県　③千葉県

■総合優勝
東京都／香川県／石川県（同率）

日本武道館発行　単行本のご紹介

相撲 その歴史と技法

東京大学大学院
法学政治学研究科教授
新田一郎 著

四六判・上製・422頁・2,400円＋税

相撲の成立から現状を経て将来像へ

相撲の成立から、現代相撲の基本的な条件が整うまでの歴史の概略をたどり、相撲技術の歴史的な変遷について概観する。
「相撲はどこから来たのか、相撲とは何か、相撲はどこへ行くのか」を問う著者渾身の一書。

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学客員教授 **田代しんたろう** 著
B5判・302頁・本体1,000円＋税

収録偉人
- 嘉納治五郎（柔道）
- 高野佐三郎（剣道）
- 阿波研造（弓道）
- 双葉山（相撲）
- 船越義珍（空手道）
- 植芝盛平（合気道）
- 宗道臣（少林寺拳法）
- 園部秀雄と美田村千代（なぎなた）
- 鵜沢尚信（銃剣道）

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！　現代武道９道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。大人も子供も楽しく読んで、歴史も学べる武道教養マンガ。

役に立つ 少年剣道指導法

香川大学教授・医学博士
剣道教士八段 **山神眞一** 著
A5判・並製・258頁・DVD付・本体2,400円＋税

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。少年剣道指導者必読の一書。　付録のＤＶＤには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間１１５分を超える映像で紹介。

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行　単行本のご紹介

小笠原流の伝書を読む

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家 小笠原清忠 著

鎌倉時代から江戸時代にいたる武家礼法で、弓術、弓馬術と結びついた小笠原流。まずは小笠原家の歴史をその起源から概観し、続いて礼法の総論を述べる。さらに小笠原家に伝わる『修身論』や『体用論』などの伝書や教歌を繙いていく。伝書や教歌の原文を記して、その教えが現代にどう活かされているのか具体的事例を挙げながら解説。

四六判・上製・322頁　本体2,400円＋税

なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長 長濱 文子 著

沖縄のなぎなたを、ゼロの状態から〝県技、といえるほどに成長させた道のり、その裏にあった関係者の惜しみない努力、成功に導いた数々の工夫を、沖縄県なぎなた連盟設立以来の会長であり、全日本なぎなた連盟会長も務めた著者が綴る。なぎなた普及のあゆみを知ることができるのはもちろん、著者が長年の事業経営・なぎなた組織運営を通して得た人生の教訓や教育論から、様々なことを学べる一冊。

四六判・上製・354頁　本体2,400円＋税

柔道 その歴史と技法

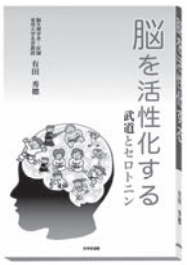
筑波大学名誉教授 藤堂 良明 著

柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックを始めとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。

四六判・上製・330頁　本体2,400円＋税

脳を活性化する

脳生理学者・医師東邦大学名誉教授 有田 秀穂 著



人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経――その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もができる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。

A5判・並製・346頁　本体1,600円＋税

弓道 その歴史と技法

筑波大学体育系准教授 松尾 牧則 著

弓矢の発生から日本における弓矢の発達、技法の発展を歴史を追いながら概観し、また、世界の弓術の数々も紹介。現代の弓道の課題や射法についても踏み込んだ、弓道研究の第一線に立つ著者渾身の一書。巻末には、五百冊以上の参考文献や、人名・事項索引を掲載。弓道指導者必携の書。

四六判・上製・484頁　本体2,400円＋税

役に立つ少年柔道指導法

公益財団法人講道館道場指導部課長 向井幹博 著

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のＤＶＤには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。

また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

A5判・並製・414頁・DVD付　本体2,400円＋税

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤 成明 著

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修錬で大事な事柄を綴る。これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁　本体2,400円＋税

平法 天真正伝香取神道流

天真正伝香取神道流師範 大竹 利典 著

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

四六判・上製・296頁　本体2,400円＋税

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第６回全国少林寺拳法指導者研修会

中学校授業に特化して研修

川島一浩講師による基本諸法の指導

第６回全国少林寺拳法指導者研修会（主催＝日本武道館、少林寺拳法連盟、後援＝スポーツ庁、日本武道協議会）は９月15日～17日、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で、講師９名、参加者54名が集まって行われた。

今回は昨年までの内容を一新し、中学校保健体育科における少林寺拳法授業実施に向けて、教員や外部指導者の資質向上を目的に実施した。

■１日目（９月15日）

開講式ではまず、川島一浩少林寺拳法連盟会長が挨拶した。

「昨今、武道界、スポーツ界で残念な不祥事が続いていますが、少林寺拳法グループにとっても重要な課題です。研修会を通じて、ハラスメントの根絶にも触れていきたいと思っております。また、今回は中学校における少林寺拳法授業に特化した内容で進めていきます。それが中学校、高校、大学のクラブ活動にもつながるようにしていただければと思っております。内容がさまざまな分野にわたりますが積極的な姿勢で臨んでいただきたいです」

次に、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶に立った。

「次期学習指導要領に武道９種目が並列明記されます。また、研修会では指導者の資質とともに指導力の向上が大事です。中学校の生徒、門下生の指導に対して、少林寺拳法の良さをどのように伝えるか。今回の講師には総裁、会長ほか素晴らしい先生がそろっています。わかりやすい指導内容、学習内容、効果の上がるプログラムが用意されています。内容を素直にしっかり受け取っていただいて、指導力の向上に役立てていただきたいです」

開講式後は宗由貴特別講師が「中学時代に養うべき生きる力」と題して講義を行った。その中で宗特別講師は、少林寺拳法を稽古している指導者に出会ったおかげで自分の人生の可能性を信じて生きることができるようになった障害を持つ中学生の話を紹介しながら、少林寺拳法には心に響くものがあることを伝えるのが大事だとした。

『中学校武道必修化指導書ＤＶＤ』の上映に続いて、川島一浩講師による基本諸法の指導が行われた。

夜は班別討論が行われた。はじめに、小井寿史講師が武道必修化の現状と課題を講義したあと、授業における少林寺拳法の価値をテーマに、班ごとの討論を行った。

■2日目（9月16日）

鎮魂行のあと、中島正樹講師による技術指導が、中学校保健体育科の少林寺拳法授業1回目を想定したものとして行われた。準備運動、礼法の解説、動的ストレッチを行い、他者との合掌礼の合わせ方、座り方、立ち方の解説をした。続いて、6人グループになって全員でタイミングを合わせながら立ち座りを行った。次に開足中段構から上段突、中段突、下段突、中段蹴を指導した。

少林寺拳法未経験者に対する基本技術指導

少林寺拳法未経験者による模擬授業

その後は4班に分かれ、それぞれ号令法（安田智幸講師）、リズム法（小井講師）、かかり稽古法（合田雅彦講師）、初心者指導（髙坂正治講師）が行われた。

続いて、川島講師が「少林寺拳法の概念と組織」と題して講義を行い、少林寺拳法の原点から連盟の現状、課題について述べた。

次に、中島講師が「効果的な授業展開への取り組み」と題して、授業で少林寺拳法を採用されるために必要な知識を講義した。

午前中の4班をさらに班分けし、計15班がそれぞれ20分程度の指導案を作成した。その後、その指導案をもとに模擬授業を行った。

■3日目（9月17日）

鎮魂行のあと、安田講師が「少林寺拳法授業の評価法について」と題して講義を行った。中学校の授業での指導と部活動や道場での指導の違いとして、①少林寺拳法をやりたい生徒ばかりではないこと、②運動が苦手な生徒もいること、③多くを教えないこと、④必要なことはしっかり教えること、⑤安全面に注意することがあげられた。次に、学習指導要領にある観点を解説。平成28年度中学校武道授業（少林寺拳法）指導法研究事業の模擬授業において、演武発表の映像を流しながら、参加者それぞれが評価を行った。最後に安田講師は、評価は優劣をつけるよりも、できたという達成感を持って生活していけるような評価基準を作ってあげることが大事だと強調した。

続いて、合田講師より研修会の講評が述べられた。

「3日間お世話になりました。この研修会を通じて、少林寺拳法を知らない先生でも授業ができるという確信を持ちました。都道府県に帰って、一つでも多くの採用を目指しましょう。T2の先生に知っておいてほしいのは、授業には年間計画があるので、年度途中での変更は難しいことです。県連単位で地道な働きかけを行ってほしいです」

◇

閉講式では参加者に修了証を授与した後、川島会長と松尾貴之日本武道館振興課長が挨拶を行い、全日程を終了した。

（文責・日本武道館振興課）

好評発売中

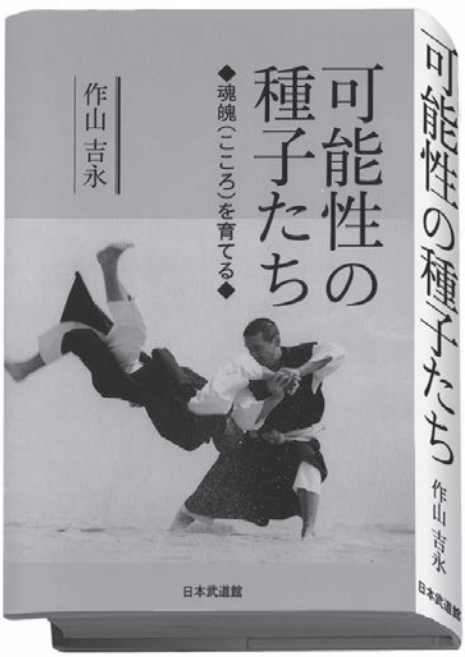
『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の種子たち

―魂魄（こころ）を育てる―

『魄（はく）』は生きるための生命力――
『魂（こん）』は人間を善に導く原動力――

魂魄（こころ）が健全に育てば、豊かな感性や意思力、行動力などが備わり、やがて得るであろう多くの知識を、智慧とすることができる。子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種子の芽生えなのである。



金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長
作山 吉永 著
（四六判・上製・338頁）

主な目次

第1章 少林寺拳法／第2章 直心是道場／第3章 師事／第4章 マイ・アメリカ／第5章 可能性の種子、芽吹く／第6章 嵩山少林寺／第7章 魂魄（こころ）を育てる／第8章 新しい扉を開く

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

マンガ・武道のすすめ

（B5判・236頁）

漫画家・別府大学教授　**田代しんたろう 著**

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

少林寺拳法は4話を掲載！

第17回世界剣道選手権大会

日本が団体・個人で男女とも優勝

平成30年9月14日から16日までの3日間、第17回世界剣道選手権大会が韓国・仁川市の南洞体育館において国際剣道連盟（ＦＩＫ）主催、大韓剣道会主管で開催された。

世界剣道選手権大会(ＷＫＣ)は、１９７０年に第１回大会が日本武道館で開催されてから、３年毎に主管国をアジア、アメリカ及びヨーロッパの各ゾーン持ち回りで開催してきた。韓国での世界大会開催は、１９８８年ソウルでの第７回大会以来で30年ぶりであった。

今大会17ＷＫＣには、56ヵ国・地域から前回を上回る631名の選手が参加し、予選リーグは６試合場で行われた。決勝トーナメントは従来通り４試合場で行ったが、世界大会を６試合場で行ったのは初めてである。

また、試合場が増えたことにより、審判主任、審判員も増員となったうえ、透明性、公平性等の観点から、審判員の配置決定にはクジによる抽選を取り入れた。このことも初めてであったが、主管の大韓剣道会関係者の懸命な準備、運営の結果、予想以上に順調であった。

日本剣道形
梯正治範士（左）と中田琇士範士（右）

韓国の朝鮮勢法

1日目（9月14日、開会式、男子個人戦）

大会初日は、開会式での国際剣道連盟張富士夫会長の挨拶、主管国の大韓剣道会李種林会長の挨拶の他来賓の祝辞等があった後、梯正治範士と中田琇士範士による日本剣道形の演武、韓国の朝鮮勢法（ちょうせんせいほう）の演武が行われ、男子個人戦の開始となった。

◇

▽男子個人戦は、各国・地域最大4名までの選手登録が可能であり、55カ国・地域から205名の選手が参加した。日本からは、勝見洋介、西村英久、安藤翔、竹ノ内佑也の4選手が参加した。

日本選手4名は、それぞれ3名での予選リーグを二本勝して、難なく決勝トーナメントに進んだ。

決勝トーナメントでは、4つのブロックに日本選手が一人ずつ割り振られていたが、第1ブロックの勝見が準々決勝（5回戦）で韓国のB.Parkに胴を決められ敗退し、第2ブロックの西村が3回戦で韓国のJ.Joに小手二本をとられて敗退した。第3ブロックでは、竹ノ内が準々決勝で米国のHatakeyamaを面の二本勝で破り、準決勝に進んだ。第4ブロックでは、安藤が準々決勝で韓国のM.Jangを延長の末、小手を決め、準決勝に進んだ。

その結果、準決勝の一方は、韓国選手同士、他方は日本人選手同士の試合となった。

準決勝のJ.Jo対B.Park戦は、J.Joが勝利し決勝に進んだ。もう一方の準決勝、竹ノ内対安藤の対戦は、5分間で決着がつかず、延長の末、安藤の面が決まり、決勝戦は、日本の安藤と韓国のJ.Joとの間で行われることとなった。

決勝戦では、序盤に安藤が面を決め一本先取したが、その後、攻めが消極的になり反則を取られた。反則を取られた後の安藤は、再び積極的に攻め、見事に二本目の面を決め、優勝を勝ち取った。

男子個人・決勝＝安藤翔（右）対J.Jo

女子個人・決勝＝松本弥月（右）対山本真理子

女子団体決勝・副将戦＝山本真理子（右）

2日目（9月15日、女子個人戦、女子団体戦）

▽女子個人戦には、49カ国・地域から171名の選手が参加した。日本からは、山本真理子、藤本美、松本弥月、妹尾舞香の4選手が参加した。4選手とも予選リーグの2試合及びトーナメントの準々決勝まで順調に勝ち上がり、準決勝は4人の日本選手同士の試合となった。

準決勝の一方は、妹尾対山本、他方は、藤本対松本となった。山本が妹尾を小手で降し、松本は藤本を面で降し、決勝戦に進んだ。

山本は世界大会4度目の出場で今回日本選手団女子の主将であり、対する松本は前回の女子個人戦優勝者という注目の決勝戦となった。お互いに攻め合いが続いた中盤、松本は、山本の引き逆胴が不充分なところをすかさず面に決め、さらに後半、小手を決めて勝利。世界大会女子個人戦の2連覇を達成した。

◇

▽女子の個人戦に続き女子団体戦が行われた。

女子団体戦には、38カ国・地域が参加した。

日本女子チームは、山本真理子、松本弥月、渡邊タイ、高橋萌子、冨永比奈野、松本智香、竹中美帆の7名の選手から毎回のように編成が変更された5名が試合に臨んだ。予選リーグでメキシコ、ポルトガル及び英国をいずれも5―0で破り、決勝トーナメントに入ってからは、1回戦のフランス、2回戦のセルビア、準決勝戦のカナダに勝ち、決勝戦に進んだ。

決勝戦では、日本女子チームは、先鋒・渡邊、次鋒・高橋、中堅・冨永、副将・山本、大将・松本（弥）の選手編成で、韓国チームと対戦した。

先鋒の渡邊が韓国の先鋒と引き分けた後、次鋒の高橋がきれいな面で一本勝をし、日本がリードした。中堅の冨永は上段で攻めるも引分となり、副将の山本も慎重かつ動き良く攻めたが引き分け、大将戦に繋いだ。大将の松本は、開始早々面を決め、その後は慎重に攻め、途中反則を宣言されたが、4分間の試合時間の最後まで凌いで一本勝とした。結果、2―0で韓国チームを破り日本の優勝となった。

3日目（9月16日、男子団体戦、閉会式）

▽男子団体戦には、49カ国・地域が参加した。

日本男子チームは、大城戸知、西村英久、竹下洋平、安藤翔、前田康喜、竹ノ内佑也、星子啓太の7名の選手から、毎回、相手チームに応じて5名が編成され試合に臨んだ。予選リーグでの、対ラトビア、ニュージーランド及びルーマニアさらに、決勝トーナメントに入ってからも、1回戦の中華人民共和国、2回戦のスウェーデン、準決勝のチャイニーズ・タイペイに対しても全て5―0で勝ち、決勝に進んだ。

決勝戦では、日本男子チームは、先鋒前田、次鋒星子、中堅竹ノ内、副将西村、大将安藤の選手編成で、韓国チームと対戦した。

先鋒の前田は序盤で面を先取されたものの、30秒も経たずに面を取り返し、その後はお互いに慎重な攻め合いで引き分けとなった。次鋒の星子は小手を決め、一本勝とし、続く中堅の竹ノ内選手も見事な面を決め、この時点で日本が2―0とリードした。副将の西村は、面を先取したが、相手に二本取り返され、日本対韓国が2―1の状態で大将戦となった。

大将の安藤は、面を先取したものの、その後、面を取り返され、7００名を超える観衆の見守る中で緊迫する戦いが続いたが、5分間経過の笛の音が響き、大将戦は引分となり、日本男子チームの優勝が確定した。

◇

この後、男子団体戦の表彰式があり、続いて張会長による閉会挨拶、韓国の李会長から次回開催国フランスのマラシス会長へＦＩＫのバナー（過去の大会のロゴを記した幕）の引き渡しがあり、17ＷＫＣが終了した。

男子団体決勝・中堅戦＝竹ノ内佑也（左）

男子団体決勝・大将戦＝安藤翔（右）

今回の大会が大きな混乱もなく成功裡に終了したことは、主管の大韓剣道会関係者の準備・運営によるところが大きいことは言うまでもないが、日本選手団の中で剣道の文化、伝統を守るという共通意識が根付いていたからでもあると言えよう。日本選手団の髙橋俊昭総監督は、「地元での開催の韓国チームとの厳しいアウェイ戦を覚悟したが、剣道という日本の伝統文化を守るため勝つことが使命であり責任であるとの意識で、また、一つでも落とすと日本の剣道が崩れていくのではないかという気持ちで監督、コーチ、選手に意識付けを何回も行ったのが完全勝利に繋がったと考えます」と明確に述べていた。また、同総監督は、「いろいろな場面を想定し、冷静に対応できるようにし、また、積極的な試合展開をして常に戦いをリードできたのが良い結果となったと思います」と振り返っていたが、選手も同様の趣旨を述べていた。

選手の動きをチェックする髙橋俊昭総監督（右）

女子個人戦優勝＝松本弥月選手

男子個人戦優勝＝安藤翔選手

女子個人戦連覇を達成した松本弥月選手は、「アウェイの韓国で日本人チーム、個人とも優勝できたのは練習の成果であり良かったです。個人戦では日本人同士4人の戦いになったが、一緒に頑張ってきたので決着は避けたかったし、ミスした人が負けるとの感覚でした」と述べた。

また、「団体戦の決勝での大将については、宮崎監督から直前に言われたが、どのポジションでもどんな場面でも試合するよう練習してきたので状況に合わせて実行しました」とのコメントがあり、さらに、ブーイングについて「起きなかったというより、起こさせなかった」との言葉が印象的であった。

男子個人戦優勝の安藤翔選手は、「過去に日本人選手が個人戦で優勝を落としたことはなかったので、自分が勝たなければという気持ちで臨みました。序盤で面を取ったが、途中反則を取られて、もう一度攻め直そうという気持ちになり、面が取れました。団体戦の大将は、個人戦優勝の直後に石田監督から言われました。団体戦では、何としてもチームの勝利に繋げたいとの気持ちで戦いました」と述べた。また、「韓国へ出かける直前に北海道で地震があり同僚の警察官が停電対応や復旧作業をしている中、世界大会に行っても良いのかと心苦しいかったので良い結果を残したい思いで戦った」との言葉が感動的であった。

【大会結果】

▽男子団体
優　勝＝日本
準優勝＝大韓民国
第3位＝チャイニーズ・タイペイ
　アメリカ合衆国

▽女子団体
優　勝＝日本
準優勝＝大韓民国
第3位＝カナダ
　オーストラリア

▽男子個人
優　勝＝安藤　翔
準優勝＝Jin Yong JO（韓国）
第3位＝Byung Hoon PARK(韓国)
　竹ノ内佑也

▽女子個人
優　勝＝松本弥月
準優勝＝山本真理子
第3位＝藤本　美
　妹尾舞香

▽次回世界大会18ＷＫＣは、大会前日の国際剣道連盟総会で２０２１年５月下旬にパリで開催されることが決定された。

（文責＝佐藤征夫・全日本剣道連盟常任理事〔国際担当〕）

好評発売中

伝えたい日本のこころ

絵と文　中村　麻美（なかむらまみ）

Ｆ４判・上製・98頁・定価（本体2700円＋税）

中村麻美（なかむら・まみ）画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室（田中峰雪氏に師事）にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、ＮＨＫＢＳニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説挿画を描いたＮＨＫ大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に〝天地人丸紋絵巻〟（兼続お船ミュージアム所蔵）、「斎王」（三重県立斎宮歴史博物館所蔵）など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」――こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。（本書「あとがき」より）

目　次

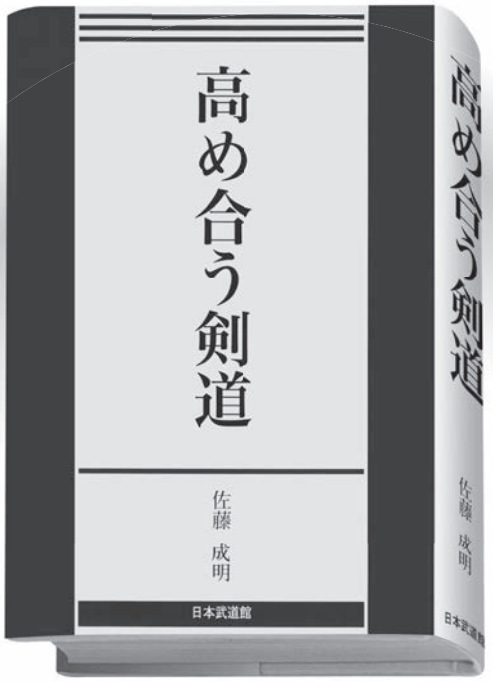
一　かしこい小僧さん
二　ひよどり越え
三　天の石屋戸
四　巌流島の決闘
五　太田道灌と少女の歌
六　三本の矢の教え
七　山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
八　良寛さまと筍
九　民を慈しむ仁徳天皇
十　中江藤樹―母への薬
十一　夫の危機を救う弟橘媛
十二　良子斎王―別れの御櫛
十三　桜井駅の別れ
十四　八俣の大蛇
十五　川中島の戦い―謙信と信玄
十六　紅梅内侍と鶯の宿
十七　新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
十八　小松姫―夫の居城を守りぬく
十九　青の洞門
二十　鍋島直茂と接ぎ木
二十一　小林虎三郎―米百俵の精神
二十二　島津義弘―関ヶ原敵中突破
二十三　光明皇后―千人のからだを洗う
二十四　城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
二十五　松坂の一夜
二十六　柳に飛びつく蛙
二十七　称名寺『青葉の楓』
二十八　神武天皇ご東征
二十九　本多忠朝とサンフランシスコ号
三十　つるべの朝顔
三十一　野中兼山―海に捨てたはまぐり
三十二　鉢の木
三十三　因幡の白うさぎ
三十四　堪忍のわび証文
三十五　橘曙覧『独楽吟』
三十六　南総里見八犬伝
三十七　吉田松陰の志
三十八　鳥居強右衛門の勇気
三十九　明智光春―誉れの湖水渡り
四十　赤穂義士の討ち入り
四十一　頼朝を助けた梶原景時
四十二　真田幸村―大坂の陣
四十三　天照大御神と美し国・伊勢
四十四　和田勇―祖国にオリンピックを招致
四十五　長岡花火『白菊』
あとがき

編集・発行　公益財団法人日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

高め合う剣道

筑波大学名誉教授　佐藤　成明　著



〝互いに学び高め合う教育剣道のために〟

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修錬で大事な事柄を綴る。

これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁・本体2,400円＋税

目次

第一章　剣道小史―剣技・剣術・剣道の歴史
一、奈良時代～江戸中期―闘争の技術から竹刀剣術の誕生まで
二、江戸時代中期以降～現在―剣術から剣道へ
第二章　剣道と教育
一、教育に関する基礎知識
二、「三育思想」
三、「教育基本法」と「学習指導要領」
四、「礼」の教育について
第三章　自分史を綴る
一、佐藤家略史
二、私の小学校時代
三、私の中学校時代
四、私の高等学校時代
五、私の大学4年間―体育教師を志して
六、指導者としての第一歩を踏み出す
七、指導者としての修行と剣道の国際的普及
八、「教育剣道の灯」を受け継ぎ、受け渡すために
第四章　剣道の特性と剣道指導の在り方
一、剣道の特性と在り方
二、剣道指導の在り方
三、『風姿花伝』から発達段階に応じた指導を考える
第五章　「稽古」―学習と指導
一、基本動作
二、基本の稽古法
三、応用動作
四、稽古への取組方と方法
五、剣道における形の重要性
第六章　試合について
一、試合(一)――先達の文献から
二、試合(二)――剣道の「術理」
終　章　高め合う剣道
一、稽古の意義と心得
二、剣道に関する古今の訓え
三、互いに学び高め合う教育剣道のために

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）

刀剣の歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

武道における身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）

禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）

今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

人を育てる剣道

剣道範士八段

角　正武 著

（四六判・上製・268頁）

武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中　守 著

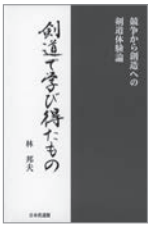
（四六判・上製・274頁）

兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で学び得たもの

中京大学教授

林　邦夫 著

（四六判・上製・298頁）

月刊 心技体 人を育てる総合誌
武道

月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。